明治四十四年八月一日發行（毎月一回一日發行　七月二十八日印刷納本）
明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

新女界

第參巻第八號

東京　新人社　發行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界第參卷第八號目次

◉神の聖愛　海老名彈正
◉形式道德の無能力　村田勤
◉結婚問題(其二)　深田憲治
◉三十年前宮川牧師の訓戒　海老名みや
◉土耳其の話　小松武治
◉名古屋藩の青松葉事件　南東生
◉シモンの父(モーパッサン)　丸山英一
◉清國婦人の將來　片山幽吉
◉母の日　野口せい
◉夏の色々
△懷かしい十年前の夏　安井哲
△惠み多かりし二夏　三谷民子
△夏の巴里　藤島武二
△西班牙の夏　湯淺一郎
◉逗子より　孝子
◉現代婦人の地位　石人生
◉編輯だより
◉挿畫　有田四郎

毛髮の惡臭は交際上の不覺紳士も奥さんも孃さんも香りよき千代田香油に限るとの高評盛んなり

定價　七十錢　卅五錢　廿五錢　十七錢

スワン石鹼

純白で湯水に浮き價安くて品の良き英國製スワン石鹼は全國の藥舗小間物店化粧品にあり

東京馬喰町四丁目

英國製スワン石鹼日本一手販賣

山岸三之助

電話浪花三七九三
振替口座一九九七八

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

八月號

婦女界

一冊十五錢郵税一錢五厘六冊九十錢十二冊一圓七十五錢

東京神田 同文館

◎美人論

▲時代から見たる美人……佐々醒雪
▲整齊の美……白柳秀湖
▲体育は美人を生む……井口あぐり
▲表情は美人の一資格……藤島武二
▲注意すべき婦女子の姿……田代義德
▲美人とは如何なるものか……久保田米齋
▲遺されたる京美人……大道雷淵
▲美人に對する各國人の理想……桑谷定逸

◎臺所の經濟は如何にすべきか 大西よし子
◎千倍に擴大したる人の顔 安藤秋三郎

◎女と宗教 平岩愃保

▲海事思想と主婦の責任……肝付中將
▲踊は立派な藝術である……田中博士
▲再び向氏の忠孝論を排す……加藤學士
▲親に對する娘の希望一定の開放を望む 野路の雨

◎見合ひ論 宮田脩

◉月夜 泉鏡花
◉とみくじ 内田魯庵

△小兒衛生…豊福醫學士
△文藝其月々 沼波文學士
△英詩と婦人 若月文學士
△名畫解說 瀧村文學士
△英詩『海邊』仙石四郎
△夏の流行 △豆腐料理

懸賞新題 一等一圓五等外數 ◎ 和歌俳句習字繪畫 一等三圓其他數等

『かれこれと迷ふこと勿れ
完全無缺なる大學目藥あり

大學目藥は帝國醫科大學病院の處方に基きし貴重の製劑にして●はやり目●トラホーム●星目●のぼせ目●かすみ目●血目●疲目其他眼病一切に驚くべき奇効あり●全國各地有名の藥店にあり

▼聖書研究者のため▲

宮川經輝著 **約翰傳釋義** 定價壹圓 郵稅八錢

牧野虎次著 **舊新約全書總論** 上製定價壹圓半 並製定價壹圓廿五錢 郵稅各拾貳錢

安部清藏著 **馬太傳講義** 定價壹圓 郵稅八錢

湯淺吉郎著 **箴言講義** 定價五拾錢 郵稅六錢

日野眞澄著 **以賽亞書講義** 上製定價壹圓半 並製定價壹圓廿五錢 郵稅各拾貳錢

芦田慶治著 **羅馬書講義** 上製定價八拾錢 並製定價六拾五錢 郵稅各八錢

宮川經輝著 **約翰一、二、三書釋義** 定價廿五錢 郵稅四錢

ラルネデ博士講述大宮季貞氏錄

●新約聖書講解●

全十冊定價拾參圓七拾錢
全部一時に御注文の向へは壹割引
——小包料ハ申シウケズ——

▲**共觀福音講解** (上卷)定價壹圓八拾錢(下卷)定價壹圓 郵稅拾貳錢

△**約翰傳講解** 定價壹圓五拾錢 郵稅拾貳錢

▲**使徒行傳講解** 定價壹圓三拾錢 郵稅拾貳錢

△**羅馬書講解** 定價壹圓 郵稅拾貳錢

▲**哥林多前後書講解** 定價壹圓七拾錢 郵稅拾貳錢

△**保羅之小書講解**(上卷) 定價壹圓卅五錢 郵稅拾貳錢

▲**同**(下卷) 定價壹圓廿五錢 郵稅拾貳錢

△希伯來・雅各 彼得前後・猶太**書講解** 定價壹圓五拾錢 郵稅拾錢

▲約翰書簡**默示錄講解** 定價壹圓參拾錢 郵稅拾貳錢

發兌 東京々橋尾張町 振替東京五五三 **警醒社書店** △本鄉區△春木町 **同支店**

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

羽仁もと子主筆

婦人之友

八月一日發行　第三號　一冊金十五錢　郵稅一錢五厘（六冊前金九十錢　十二冊一圓七十五錢）郵稅共

◎忙しく暮す私の日々……北尾夫人

◎母乳の外に嬰兒の食物はない……加藤博士

◎規則正しき授乳のしかた……羽仁もと子

◎子供のきものは何がよきか……同

◎かうして子供に食事をさせる（女中訓）

◎中流の家庭に於る交際費……羽仁もと子

●呪はる丶女子教育……文學博士三宅雪嶺

●かくして眞の夫婦生活に入る……羽仁もと子

◎千五百圓で出來る洋風住宅

◎掃除のしかた（納戸のかたづけ方）

◎恰好よき着物の仕立方……延子

◎ネクタイの編方……寺西綠子

◎私どもの子供の夏帽子（二人分で七十錢）

◎新案の寢冷知らず懸賞當選發表

▲夫の放蕩に苦める妻へ……

▲名畫にあらはれし子供……

▲假名文字の習ひ方……星野

▲鉛筆畫の習ひ方……大下藤次郎

▲文藝その月々……河井醉茗

▲フロスの水車場……松本雲舟

▲表情術と日常生活……三枝

▲夏のお化粧……のぶ子

▲暑中の客あしらひ……たず子

▲三杯酢とそぼろ……みどり

▲八月一杯の總菜獻立……

▲家政問答……羽仁もと子

▲大洗海岸（中澤弘光筆）

▲わが巣（リヒテル筆）

▲英國王子の魚釣（畫報）

▲三宅雪嶺博士の家庭（畫報）

▲少女の一日（畫報）

●はらから（畫報）早起（畫報）

▲子供の髮かたち（畫報）

▲誕生より入學まで（畫報）

▲子供のあるらしき家（畫報）

▲學校園のいろ／＼（畫報）

▲夏の玩具のいろ／＼（畫報）

▲愛犬クロ（畫報）

初號四版　二號再版

東京小石川區雜司ケ谷町　振替口座東京壹壹六〇〇

婦人之友社

第参巻第八號

神の聖愛

海老名彈正

△怎うして神のやうになれるか

黒住教を開いた黒住宗忠は年十六にして、神に成る問題を提出したといふ。之を聞いた人々は唯冷笑つて過ぎた。併し彼は決して失望しない。

彼は一向修養に工夫を積んだ。而して遂に年三十三にして初めて初一念を達したといふ。誠に面白い話である。此處に宗教の希望が存する、佛教に於ても成佛するといふことが、無上の望、最大の欣求である。併し乍ら此の神に成りたいとか、佛に成り度とかといふ願望や欣求は、容易に達せらるゝものではない。而も死ぬべき人として、悲しき人生として墮落し易い人として、破られ易い人生として、神に成りたい佛に成りたいといふ願は、寔に人情の自然である。故に古來何れの宗教に於ても、神に成る事、

否な神のやうに成るといふ事が、最も尊い意味に於て、深い〳〵要求として熱い祈願として溢れ出でたのである。

パウロは此の希望を最も善く味はつた人である。哥林多前書に於ては「それ信仰と望と愛と此の者は常に在なり」と申してゐる。盛んに望を高調してゐる。又他の所では望に由りに吾等は救はるゝといつてゐる。實に望は生命である。望の存する間が生命の存する以所になる。人は年を取ると身體も精神も衰へて、死を考へるやうに成る。死には望はない。之に反して、愛くるしい元氣と活氣とに充ちた小供は望と生命との考へばかりである。

△神の榮を望んで喜ふ

先般朝鮮に行つて視ると、朝鮮在來の人と日本人とは自づと相違がある。是は人種や風俗の相違でなくして、日本人には希望が充ちて朝鮮人には殆ど失望の色が見ゆる。話の中に彼等より希望を引き出さんとしても、今後は偉大なる國民として進むのであると云つても、彼等は依然として亡國の感に捕はれてゐる。是に引き換へて日本人には生々とした希望の色がある。演説の中にも屢々朝鮮人に向つて、今後二三十年を忍んで奮闘せば韓半島を出でゝ世界的に成ることが出來る。進んで大帝國の大臣とも成り、又學者としては帝國大學の教授ともなれるといつても、彼等は却々解らない。

吾々人間が神に成らるゝと言つても、多數の人々は承知せぬ。宗教心の無い人には夢とも見えやう。呆言と思はれやう。しかし吾々には此の大なる望を持せらるゝ、實に感謝せねばならぬ。或る典獄の話に朝鮮人は非常に諦がよい。殊に死刑に處せらるゝ時は何一つ不平も言はず、平然として死に就く。僅かに一盃の酒、一吹の煙草を其の死の間際に乞うて後、從容として絞首臺に登る。實に泰然として死するは朝鮮人の持前であると。併し此る死は寧ろ絶望の人に能く在るのである。彼等には人生の價値が認

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

められねばこそ、其の死にも泰然たることが出來る併し人生の價値は人の望に在るのである。同じ從容たる死でも、我が基督者の死は絶望の死ではない。讃美の死である。神の榮に入る死である。喜んで逝く死には輝いた希望が有る。斯の如く望を懷いて、神の榮を望んで行く所に神の聖愛がある。神の思召は實に吾等をして其の望を全うせしむる所に在る。然しこの希望の前には嚴しき鍛錬が置かるゝ。

△希望に生きるは神の聖愛

パウロが吾等患難にも欣喜をなすと言ふ。「患難は忍耐を生じ、忍耐は練達を生じ、練達は希望を生じ、希望は羞を來らせざるを知る」といつた。ストアの修養を蔑如した英氣である。此の世にありと有る患難は、吾等を神たらしめんとの神の尊き訓練である。爰に人は神の聖愛を感得せねばならぬ。神は無限に人の罪を許し、無限の慈愛に育み給ふ、これは吾等に取りて無上の福音である。子供が母の懷に抱かるゝことは世に尊い事であるが、此の方面のみが宗教の狀態ではない。是のみでは未だ充分に神の清い恩愛が解らぬ。如何にしても神の榮光に入るには訓練が必要である。獅子は其の兒を谷底深く蹴落すといふ。神も吾々を此の如く患難の谷底に陷らしめ玉ふ。併し是に由りて吾等は忍耐力を養ひ、鍛錬して希望を確にするを得る。故の小林富次郎氏の如きは、實に驚ろく程此の間の消息を明かにした人である。貧に迫られ、困難に出會ひ、失敗の苦き味を善く嘗めた人であつた。寔に彼は困難の人であつた而もこの中から潔い心と人格とを研いて來た。幾度か死んとして生き、其の都度彼の人格は崇く成つた一段の光彩は彼の尊い希望を照らして來た。

斯くして彼は實に神の子たる事を得て、神の榮を望んで死する事を得た。是れ實に神の彼に示し給ふたいとゞ崇き聖愛である。

斯の如く身は窮地に在り又死地に在るも、神我を愛し給ふといふ有り難さに、決して神を恨みず人を

呪はず、望の欣喜を完うするを得る。こゝに神の聖愛が現はれてゐる。事志と違ひ、失敗の破目に遇ふとも、尚ほ心に神を仰いで行く時に、神の榮光は如實に吾等の身に實現して、所謂神の子として、玆に初めて人生の意氣を解し得る。世には往々善人が苦しみて惡人が榮ゆる。併し爰に考ふべき事は、神の如く成るといふことである。惡人は榮を受けて愈神より遠かり、善人は苦を受けて愈神に近く何たる相違である。故に事の成敗は其の人の主眼點ではない。世人より捨てらるゝとも、我が人格は爲に傷くものではない。却つて之が爲に光輝を放つ。

△日本中を照す月では小さい

自己の人格に就て無頓着な、何とも思はぬ人にも成功はつきさふことがある。而して彼に取つて其の成功は却つて墮落の因となる。成功は遂に末恐ろしき望なき死に到らしむることがある。神の聖愛に由りて變化せられざる限り、永　生の望を生ぜん、

神の榮光に入る欣喜も起らないのである。

吾人は日本人として生れて來た故に、日本人としての日本魂を有つてゐる。併し吾等は又神の子にして神の聖愛に依りて潔められた魂を持たねばならぬ日本人たると同時に吾人は人類である。故に基督者として世界的精神を有たねばならぬ。今日は日本魂も此の基督者の精神を容れなければ、實に狹小ものに成つて了ふ。或る人が日本魂は大和魂でなければならぬと云つた。大和魂とは大和國の魂といふ譯であるそうだ。

是では益々小さいものに成る。兎もすれば日本を小さく考へんとする今日の一面の傾に對しては、大に警戒を要する。彼の維新の大業は實に驚くべきものであつた。一藩々々に固まつてゐた小さい精神を日本といふ大なるものに結び付けた。是れ實に偉大なる事業で在つた。實に日本主義といふものゝ爲めに、藩籍を脫して自ら浪人者に成ることを甘じた。彼等は最初三千萬の同胞と聞いたとき、今更らの如

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

く駭いた、彼等はこゝに己を擲つインスピレーションを見出した。是と同じく今世界的に成るには一面慥かに苦痛が在る。併し吾々は怎うしても狭小い日本魂を打ち破つて世界魂と結び付けねばならぬ。例へば「幼稚園の子供が、お月様偉いな、お日様の兄弟で、眞圓になつたり、三日月になつたり、春夏秋冬日本中を照らす」と歌つてゐるが、月が僅かに日本中を照らすと教ゆる教師の考が寔に小さいと謂はねばならぬ。

少し氣の利いた兒童は、家庭で世界地圖を見て日本の小さい島國の事も直ぐ知る。さりとは餘りに無分別な小さい考ではない乎。神の子とは實に宇宙の神の子である。

△吾人は日本婦人に何を待つ乎

今から三十年程前に丹後の或る所に、鬼婆と言はれた一人の老媼が居た。或る日大阪の親類の家で基督教の話を聞いて、非常に感じ入つて終に信着と成つて故郷に歸つた。之を聞いた所の神主等より〳〵協議して其の婦人を訪ねることに決めた。其の日に成つて案の通り彼等が遣つて來て、何故日本の神々を捨てゝ西洋の神を拜むかと糺いた。其の時婦人は問ひ返へしていふに、日本の神樣と西洋の神とは違うでしやう乎。夫は違ふのは決つてゐると神主達は答へた。又問うて曰ふに、夫れならばお日樣は違ふでしうかと糺いた。神主達は最早答ふる術を知らなかつた。お日樣が違はないなら、神樣が二ッある筈はない。彼の女は更らに語を次いで、己の如く爾の隣人を愛せよと云ふとが私の心に一番氣に入つた。だから私は怎ういふ神樣を信ずる、貴方達はまだ一度も其那事を教へて下さらないと、大に詰り返へしたといふ。實に其の通りである。日本の神も天照す神でなければならぬ。又佛教に於ても遍照の大慈大悲の佛でなければならぬ。而して我々基督者に成る事は大慈大悲の精神に同化し、天照す神に同化することである。偏頗なる心に狹い愛國心を煽てる僧侶

や神官の心は淺ましい。佛教渡來して既に千幾百年而も所謂名僧知識が一身を挺して、外國敎化の爲めに、又近く一葦帶水の朝鮮傳道の爲めに盡した者がない。是でも日本魂が解る。處が遠く太平洋を越えて、人種を異にし、言語風俗を異にし、歴史に於ても少しの緣故も無き國の人が、男といはず女と言はず、身命を捧げて今や朝鮮人の敎化に盡して居る。宜なる哉、僅か二十五年の間に三十萬の信徒を作り學校を建て會堂を建てゝ專心一意是が開發に竭してゐる。今や日本は政治上に於て之を支配してゐる、精神上に於ては之を外國宣敎師に委ねて安然たるべきであらうか。將に神の聖愛に潔められたる人は、男子といはず女子といはず、進んで自ら神の命に從はねばならない。今や大發展、大雄飛の時が到ったのである。**神の聖愛は吾々を驅つて世界に到らしめ**自ら進んで世界的大精神の衷に動かねばならぬやうになし給ふ。島國根性を脱して世界的大精神に結ばるゝは神の聖旨である。

吾人は殊に婦人の淸い高い理想に待つ所のもの多きを思ふ、若し夫れ日本婦人が神の聖愛に訓錬せられ、神の子の大精神を有するときは、その影響はごうであらう。吾々は實に日本婦人の大なる自覺を促さゞるを得ない。

◉女學校出の文子●●●●●●

西山恕治著
内出版外協會發行　定價四拾錢

女子高等教育は必要なりや？此問題は歴々我國教育界の問題さなつた、而して大學教育が我國に起りて未だ幾許の歳月も經ざるに早くも其效果を疑ふ者さへ生じて來た、併し女子も高等教育を必要さすることは定論である、世人が今の教育をうけた女はさ一喰に付するのは寧ろ教育家に反省すべき點あるを示すもので高等教育主義其者さは關係ない。著者は熱心なる女子高等教育必要論者である、本**書は女學生及女子を有する家庭に讀まるゝために書かれた小說でありますから**女學校の先生や生徒方が讀まれたら隨分成程さ思はれる點がありませふ。

形式道德の無勢力

村田勤

△情ない薄ぺらな了簡

當今の世の中には頓陳漢のことが數限りなくあるやうに思ふ。裏と表の違ひが甚しい。言ふことと行ふこととに大變の差がある。切言せば今日の社會には僞善の空氣が漲つて居る。悧巧者の巾を利かす世の中である。正直は馬鹿の異名に過ぎない。國を盜む大賊は諸侯となりすまし、僅かの物品を掠めたものは刑せられると、昔し支那の或泥棒が大氣焔を吐いたことがあるが、今日の世の中にも、矢張之と五十歩百歩のことが行はれて居る。今の青年には無宗教者が多いやうだが、それはたゞ皮相の觀察で、實は色々のものを拜んで居る。最多數は成功崇拜者である。政治界に頭角をあらはして一番總理の椅子を占めて見たいなどゝ欲ふものは殆ど無からう。一攫萬金の幸運を得て第二の岩崎となり日本のモルガンになりたい位望んで居るものは少しはあるだらう。意氣地のない輩は額に正直な汗を流して金を儲けることを迂遠なりと考へ、富豪又は裕福な華族の愛孃の婿となるのが金滿家になる捷徑と心得て居る。昔は成功は運と根と鈍とで得らるゝやうにいつたものだが、近頃は重に運に依賴する傾向がある。根と鈍とを拔いて成功しやうと思ふその根性がすでに腐つて居る。輕佻浮華な現代式の才子は卽ちこの類の人間である。いかにも情けない薄ぺらな了簡ではないか中等社會の子弟がかうだから中以上の生計に不自由のない、世襲財產のチャンと積んである、所謂良家の子弟等の精神の弱いことは問はずとも推了するこ

とが出來やう。たまには見上げたほどの英邁の士が此階級から飛び出すこともあるが、それは千人に一人か二人位のもので、先づ以て例外である。學習院に往つて見れば大勢が分るであらう。平民の子弟が少しは加へられて居る。彼等は精米の爲に用ふるみがき砂の代りである。卽ち貴族の子弟の爲に興奮劑の役を勉めるさうである。女子部でもその通りで姫樣方丈けにしておくといかにも上品でおしとやかではあるさうだが、どうも敎場がダルで活氣が足りなくて、敎師も始末に困るといふことである。不良少年は中以上の家庭に多い。勿論下等社會にも澤山ある。それは生活難から起るので大抵落ちつく先きは監獄と相場が極つて居る。しかし人口の比例からいへば寧しろ寡いのである。中以上の社會に多く不生産的の人間を生ずるのは生活が贅澤過ぎるからである。衣食に困る心配がないから懦弱になり不勉强になり薄志弱行になり放蕩無賴になり易いのである。十數年前の話であるが、或有力者が予等の先輩某氏の爲に爵位授與の運動をしたことがあつた。幸か不幸かその運動は功を奏さなかつた。ところが先輩の友人の一人は大に之を慶賀したさうである。その理由が頗る面白い。若し君が誤つて男爵にでも叙せられたなら君の爲には名譽かも知れぬが、君の子孫は大方阿房になるだろうと思つたから、予は事の成らなかつたのを祝するのだと言つた。

△貧乏の福音

時によると實に貧乏ほどつらいものもないが、又或場合には貧乏ほど難有いものもない。吾人の奮鬪的精神は概ね貧苦の生活の中に養成されたのであるその實例を擧げるなら殆ど際限がなからう。立志編中の人物は百中九十九人までそれである。北米合衆國の大統領の多數は大抵貧乏からやりあげた人物である。同國及び我邦で現今屈指の富豪等も大抵同樣である。維新の功臣は九十五ポルセント以上中以下の社會から出て居る。今の內閣諸大臣の中にも嘗て

貧乏の經驗を知らない人は寡からう。實に貧乏は偉人の母である。貧乏大明神といふ祠のないのが不思議な位である。しかし貧乏は吾人の目的ではないからマンモンほどには參詣人を集める譯には行くまい。勿論貧乏といふものも十把一束にはいへない。程度問題である。或程度までの貧乏は普通一般の青年にとりて最良の興奮劑であらうと信ずる。元氣逞しい青年は決して安逸を欲しない。困難と鬪ふことを愉快として居る。自由と獨立は彼等の生命である希望は彼等にとりて羅針盤である。健全な精神と鍛え上げた身體とは彼等の資本である。かゝる青年は都下の惡風に抵抗する力がある。國元の親が苦しい中から送つて來る學資を一錢も浪費しない。最

も末頼しい次代の日本國民を組織するものは彼等である。予はかゝる青年の前途を祝福せざるを得ない然るに是等の青年を惑はしめ誤らしむるものは社會の上位を占めて居る人々が示すところの惡例である當今の世の中に漲つて居る僞善の惡風である。此國民道德の根源を改善しないで、徒らに倫理の形式を八釜ましく演べ立てゝ、青年を訓戒しやうとしても無効である。イソップ物語にある通り蟹の親がその子等に向つて眞直に歩むことを敎へやうとしたのと同一であらうと思ふ。

△大豫言者出てよ

傳說的道德は形式に泥んでその生命を失つてしまつた。生命のない道德の形式は虛僞である僞善である。公然の不道德よりも一段惡むべき不道德である死んだ道德の骸骨に生命を吹き込んで蘇生せしむるは卽ち眞の宗敎の任務である。だが宗敎も動もすると形式に流れて枯死することがある。今の日本には宗敎の死骸が累々として途に橫つて居る。此事は決して古くから日本に傳はつて居る佛敎の諸派に就てのみいふのでない。新來の基督敎の中にも大分化石しかけて居るものもある。今日は日本はエゼキエルやエレミヤやイザヤのやうな大豫言者を要めて居る僧侶や牧師は養成することが出來やうが、豫言者は製造することが出來ない。その出現を待つより外に致方がない。

御製に

めにみえぬ神のこゝろにかよふこそ
　人のこゝろの誠なりけれ

とある。一千年前菅原道眞が心だに誠の道にかなへなば祈らずとても神や守らんとうたうた心と通うて居るやうに思ふが、たゞ　陛下の御歌はそをハッキリと積極的に言ひ表らはし給ふたもので、その意義頗る深遠のやうに拜し奉るのである。恐れ多い事ではあるが、この御言葉にあらはれて居る　陛下の御信念と、我々基督信徒が之を誦して味ひ得るところ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の信念の間に大に融合默契する點があるやうに思ふ。予は此誠が道徳の根抵であり又同時に眞宗教の原動力であらうと信ずるのである。

結婚問題（其二）

深田憲治

▽戀愛結婚の危險

私の申したい事は、要するに

戀愛は必ずしも結婚の最要條件ではない

といふ事です、爰にいふ戀愛とは素より櫻の花の如き脆く弱く浮き立つた、青年男女の感情を指すのではなく、極めて眞面目なる兩性間の引力を申すのですが、言ひ換へれば道念堅固なる聖らかな人格間の愛情の結合を指すのです、然し戀愛の性質には二つはありませんから、前に述べた危險性は容易に免れる事は出來ないものと私は認めます。是は戀愛が神聖であるかないかの問題とは關係ありません。私は戀愛其物には神聖も不神聖もない、神聖なる戀愛は神聖で、穢れた戀愛は穢れて居るといふ意見です。

但し、社會生活の大海に漕ぎ出さぬ青年男女が唯人格とか精神とかいふ事のみを考へて、（素より彼等に未だ生活上の問題を考へる材料もなく資格もない）結婚の問題を決定するのは、つまり戀愛を主とする結婚を遂ぐるのであるから、危險性を帶びて居ると申すのです、猶ほ重複の嫌を避けずして、も少し述べて見ようなら、

戀愛は感情の結合で永續的のものでなく
結婚は生活の結合で永續的のものである

と斷案を下さねばならぬ。夫故に夫婦生活と戀愛を混同する人には、戀愛の永續せぬ事實を基礎として、基督教主義の離婚不道德論を却て僞善なりとし不自然なりとする者もある。感情生活を送る人には決して夫婦なる者の神聖なる意義は解することが出

來ないのみならず、様々の苦痛と不平とを感ずるやうになつて、夫は妻を、妻は夫を己の重荷とするに至るは免れない結果であります「若い人は結婚するに危うく、分別盛には結婚が不必要になる」といふのは實に穿ち得たる名言です、感情は單純で、生活は複雜であるから、戀愛が結婚になつてから種々の故障が起つて來る、感情は嗅覺と同樣心の溶けるやうな薔薇の香も嗅ぎ馴るれば何ともなくなる、之に反して夫婦の生活は年數の重なるに從て益々和合一致の度を進めて遂に同化の妙域に達すべきものである。一は感情の華で、一は意思の實である。一は酒の醉で、一は飯の養である、酒を飲んで飯の味を解することは出來ない筈であります。

▽戀愛と結婚の混同

夫ですから爰に不思議の事實がある。知らない同志が親や先輩の見立で結び合つた家庭が如何にも無事で暖かく、熱愛によつて成立つた家庭が存外問題が多いのは、世間に無數に存在する事實であります是は前に申した道理を會得すれば不思議でも何でもなく、如何にもさうありさうな事であるが、夫がどうしても青年男女には分かり惡くいのは、つまり戀愛と結婚とを混同して居る誤謬に基づくのであります、夫から猶ほ知らねばならぬ事は、未婚者間の愛と夫婦の愛といふものは大分性質で違ふといふ事です、夫婦の愛は、結婚前の戀愛の有無に係はらず結婚後追々に發生し、生長するものです、夫ですから知らぬ同志が夫婦になつて追々に結ばれ來る深い愛情は、誠に素直で交り氣のない靜かな暖かなものになる。戀愛は一寸見ると犧牲的性質を持て居るやうであるが「女は美なるが故に慕はれ、女なるが故に囚はる」といふ皮肉な名言があるやうに、中々理想即ち注文が多い。此注文が結婚後甚だしい邪魔をして、御互に注文が大分外れて來る。隨て問題が多く起て來るといふ危險があるが、戀愛といふやうな熱い感情の無かつた夫婦の間には、左程六ケ敷い注文

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の無い換りに不足の起る事もない。いはゞ其心が赤貧であるから、少しの惠みも此上なく有り難い、戀愛は餘りに其心を富まして居るから、大なる惠も左程に難有くないのみならず、不足を感じ易いといふ結果になる。況んや飯の中に酒の香を求むるに至ては其失望も思ひやられます。

▽舊家庭へ忠告

人情に昔と今の變りはないが、今は猶更ら開放せられたる社會に育ち、開放せられたる教育を受けて居るから、總てが開放せられんことを望む、そこで此開放といふ意味が取り違へられて、放縱主義が行はれんとする、放縱は開放ではなくして一種の禁錮である。開放とは言ひ換へれば眞理と一致することで、放縱とは人欲に囚はるゝ事です、個人的感情は大自在を束縛するものであつて、人を開放するものではない。然し活氣の盛なる青年男女に取つては、兎に角自己の感情の他より支配せらるゝ不自由に堪へない。感情の自由を開放と心得る傾を免れない。是が最も危險なる處であります。結婚と戀愛とを混同するのもつまり此處から起つて來るのであるが、去りとて私は戀愛を以て結婚の要件の一ともしないものではない。此點は今の社會に於て、殊に舊家庭に向て大に忠告せねばならぬ處であります。戀愛のみが結婚の條件たるは極めて危險であるが、戀愛を蔑視する結婚は決して人生の眞義ではないと斷言せねばなりません。

▽夫婦は音樂であつて數學でない

全體人には其人の特質といふものがある。此特質は其人の色であつて同時に其人の存在の理由であり又其存在の價値であり權利である。此特質は其人に長所と短所とを與へる、又氣質といふものを與へる此氣質なるものは普遍の公理では抑せぬ其人に特有の者であつて、之を滅却することは其人其者を滅ぼ

す事になる。只此氣質は他人の氣質と相衝突せず又他を妨害せざる範圍に於て存在と活動の自由を有して居ることは無論であるが、朱子一派や嚴格主義の如くに此氣質を罪惡の根原の如く取扱ふは根本的誤謬です。

蓼食ふ虫も好き〳〵とやらといふ諺は是に於て其眞義を顯はす。人には好き〳〵が有つて是は理屈では押せぬ。押せぬ處が道理であり、又神の攝理の妙である。人に男女の存するは人類の二大特質で、個人間の好惡は個人々々の特質に元づく、所謂虫が好かぬといふは曖昧な點もあり誤謬も無いではないが外からどうとも支配することの出來ぬものです。是は品性の問題でなく氣質の問題であつて、如何なる者も之を壓迫することは出來ぬ、そこで

夫婦の生活は一面氣質の調和であることを知らねばならぬ。假りに或女子が或る男子との結婚を希望するとすれば、或は其の人格とか學藝とか技倆とか種々の點に於て見込む處があるとしても、夫等は根本的のものでなく、第一其人を好くといふ氣質の投合が土臺となつて居る。立派な人物だから好くといふ譯にはいかぬ、夫婦生活は職業的結合でなく、一面極めて平凡なる氣質の調攝である、慰藉は實に此點に存する。總じては男女間の溫情、別して其人と此人との間の何となき慰藉といふものは、全く此氣質の調和に依て生ずる是は一の音樂で有て數學ではない。是は其人の心の感應で有て外から窺ひ知ることの出來ぬ秘密である。或男子から見て如何にも溫良貞淑に見ゆる婦人も、他の男子から見て必ずしも好ましく感ずるとは限らぬ。隨分小六ケ敷見ゆる婦人も其夫に取ては極めて甘味のある妻君である。故に結婚は他に如何に立派なる條件が具備するにせよ、此氣質の調和が欠けて居たなら、其結婚は祝福とはならずして呪ひたらざるを得ぬ。而して此氣質は本人特有の感得であつて、他人の窺ひ知る事の出來ぬものとすれば、どうしても當人同志の相感に俟つより外に道はない。此相感は即ち相愛

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

であるから、此點から見て戀愛が結婚の要件の一たることは認めねばなりません。但し此處にいふ戀愛は頗る平凡なる意味にいふので、男女の自由交際とか、親密なる相識とかいふ事とは別問題です、氣質の奔逸程危險なものはないといふ事を思へば、此問題は然かく容易に考へらるべきではありません。

今迄申た事を此處に總めるならば、戀愛結婚を理想の結婚と思ふは非常な間違であつて、戀愛は結婚に取て大なる危險性を持つて居る、然し全く戀愛を無視する結婚も又結婚の根本性質を無視するものであつて、少なくとも兩者氣質の調和といふことが無くては結婚は眞正のものたることを得ぬといふことになります。

三十年前宮川牧師の訓誡

海老名みや

△手の大きいのは名譽だ

昔々三十年あまり昔のこと此頃の樣な、お暑い夏の夕暮、ある女學校の寄宿舍の椽側に、今日しも學期の課業を終りて、明日は懷かしい古郷に旅立んとする女生徒等、こゝ彼處に、五人三人打むれて、樂しい嬉しい話に餘念なかりし折しも、突然某先生がおいでになつたとの事に、あわてゝ、應接間に集りますと、某先生はにこ〱として『皆さん明日お出發ですか。お母さんに甘へてはいけませんよ。あなた方が此秋歸つておいでの時は今よりもあなた方の手がずつと大きくなつて、荒々しくなつて歸つて來なければいけませぬ。それはあなた方が、よくお內のお手傳をした證據です。人は細い白魚の樣な手をしてるのが何も名譽ではありませぬ。太い頑丈な手を持てるのは、此上もない名譽である。だから、夏

中には御飯たきでも雑巾がけでも水撒でも何でもしてお働きなさい」と云はれた其言葉が深く腸にしみ込んだ様な氣持がして、今日に至るまで「手の大きいのは名譽だ」この聲が度々耳に響くのであります白狀しますが、私は獨り娘で大事がられて育ちましたから、十四五まではお部屋の掃除一つろくに出來なかつたのでありました。初めて寄宿舍生活を致しまして、炊事のお當番の時などは、面白半分お米をといで、お米をこぼしたと云つては先輩に叱られ、牛肉の黒こげをこしらへては笑はれました。此頃宅の十三になります娘にチヨイ／＼用事を云ひつけて見ましても、思ふ様に手傳にもなりませぬ時にまだそれも出來ないかと申て叱り飛ばしますが考へて見れば私の十二三の時より餘程ましであると思つて、獨りでそつと笑ふ事もあります。其私が兎も角も、新家持の門出の時、田舍生活を初めまして、御飯もたけば洗濯もする、田舍の深い井戸の重い釣瓶で水を吸んで、二三十間も運んで來ては洗ひものをするといふ様に、殆ど終日の勞働に、夏は滴なす汗を流し冬は腕までひゞをきらした數年の實驗を、いとも樂しく興あることに思うて致しましたことは、慥か幾十巻の書を讀んだよりも先生方のどんな貴い敎訓を蒙つたよりも有益であつたと、深く感謝して居ります。

△此處に無上の愉快がある

こそで私はお若い女學生の方々にお勸め致します皆さん、此夏期休暇中は成る可く家庭のお手傳をしてお働き遊ばせと申すと、皆さんがヤレ又例のお說法が初まつた。昔と違つて今の女學生は勉强もすれば運動もします。體操ダンスで、規則的に身をこなすので、この通り身體の發育もよろしいではありませぬか。お料理のお手傳位は實習の爲よいかも知れまいが、此暑いのに汗水垂らして働けなんて、隨分無理だわと仰つしやる方もあるかも知れませぬが其汗水たらす處に無上の愉快さ力があるではありま

せんか。まあ試みに欺されたと思つて、浴衣の二三枚も涼しい朝風に吹かれながら洗つて御覧なさい。奇麗に洗ひあげて干した氣持のよさ、況んや夕方すつかり敷のしを仕あげた心地の涼しさは、たとへるにものなしであります。子供の多い家などでは長い梅雨中押込んで置たものや、一年中の夜具の洗濯が、日々の汚れもの外に、山を爲して居るものであります。皆さんごし〳〵解いたり洗つたり張つたりのお手傳をして大行李に山の様に、仕上げて

御覧なさい。其氣持は又何共云へない程すが〳〵しいものです。誰しも此暑さでは體が大儀で、だるくて何をするのもいやな様ですが、襷をかけて働き出して見ると、思ひの外元氣が出て血液は淀みなく廻つて來て、何時の間にかだるいのを忘れて仕舞ます。學校でお稽古になつたお料理をこしらへて御兩親や弟妹の方々を喜ばせるのも嬉しいことですが折々出來損なつて笑はれるも亦一興ではありませぬか。

△勞力の練習

都會生活をしてをりますと、水道、瓦斯、電燈、電話といふ樣な調法なものが備つて居りますので、雨でも降ります日は、女中でも終日外へ出ないで濟ます。水はチヨツト栓を廻すと幾らでも出て來る、マツチ一本でお湯も沸けば御飯も出來る、急ぎの時は電話で牛肉のお誂へも出來る。なんと便利な世の中でしやう。昔の人に話しましたら、それこそ魔法の世の中で、私共でも二十年前にはこんな想像は出來ませんでした。勿論こんな結構な世に生れ合はしたからには出來る丈これら文明の利器を利用するのはよい事でありますが、それには一つ大なる注意を致しませぬと勞力の練習といふものが丸で出來なくなつて仕舞ふだらうと思ひます。一體、我々日本人は安逸を求めたがる人民でありまして、何でも骨折らずに安々と出來ることばかり望みます、寢て居て右むけ左むけで用がたりる樣な、便利ばかりをはかつて天の賜である貴い山水の明媚や新鮮の空氣や、樣々の結構なものを捨てゝ仕舞つて惜しいと思はないのが癖であります。西洋人は其點は日本人とは大變な相違であると思ひます。今より十數年前迄は、關西の宣敎師等は、大抵はかの叡山に避暑したものですが、其二ケ月の避暑の爲に、どれ程の勞を取つたものでしやう。無論テント生活で、食物から日常品一切を一里も二里も下の村から運び上るのですから、夫は〳〵大變です。そして一家を擧て其の自由な勞多い生活をして滿足するのは何が故でありましやう。全く山上の淸い涼しい空氣と、其美しい風光とを自由に樂しみ度爲であります。其爲に幾多の力を拂ふても惜しいと思はない、また勞力を苦にしない、又よく勞働に堪へるといふことは到底私共の眞似の出來ない處であります。

△勞働を厭はぬ西洋人

さう申すとある方は、いや、夫は彼等に金がある

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

からだ、我々日本人は貧乏でとてもそんな眞似は出來ないと云はれましやうがそれは又面白い例があります。日光や中禪寺などに避暑する人々で、日本人と西洋人とは大變其趣が違つて居るさうです。家族同伴で彼地に參られまする日本の富豪紳士と云はれる人々は、大てい旅館に宿泊まして少し散歩でもする外は、多くごろ／＼として小説でも讀んで居られるが西洋人は例に由て家を借受けて、自ら避暑の生活を爲し、樂しく日を送つて居るといふことです。そして女や子供も或は山中にわけ登つて、珍らしい植物でも採つたりいろ／＼の動物を集めたりして樣々の研究に餘念なく僅か二ケ月の間でも、惜まず勞力を費す爲に、どの位貴いものを得るか知れませぬ散々惰けものは實に恥かしいこと、殘念なとだと思ひます。今一層その勤勉と勞働と厭はない人民にならなければ、徒らに天與のパラダイスも荒れはてゝ仕舞はないとも限りませぬ又其パラタイスを充分に樂しむことも出來なからうと思ひます。果報は寢て待て主義ではとても何事も出來ませぬ。昔も今も世に名の秀でた方々のことを承りますに男子も女子も皆勤勉で勞働を厭はぬ人々であります。額に汗して其パンを食へよとは天父が私共人間に命じ給ふた御言葉でありますが、眞に額に汗して初めて人の本分を全ふし、眞の貴い點に達することが出來樣と思ひます。最後に三十年の昔「手の大きいのは名譽です」との金言を確して下すつた某先生とは誰あらう世に大牧師として知られ給ふ大阪教會の宮川先生であります。

土耳其の話

小松武治

記者曰、次は去る五月土國コンスタンチノープルに開かれたる萬國基督教青年大會に列席し、更に歐洲諸國を歴遊して、六月二十八日歸朝せられたる日本基督教青年會同盟幹事小松氏のお話の大要で御座います。

△政治と軍隊　一國の政治は餘程大切である、個

人としては優つて居つても、一國として優つて居なかつたら、其の國は興らない。土耳其の如きは、既に憲法は發布され、代議政體は實施されて居るに拘らず、政治上洵に寒心すべきものがある。内亂は頻々として各地に蜂起し、民に怨嗟の聲絶えずと言つた風で、少しも王化は及んで居ない。そんな有樣であるから、各國競つて羽翼を張らんと努めて居る。其中最も熱心なのは獨逸で、彼のバグダツト鐵道の如きも、盛んに工事をやつて居た。軍隊も見て來たが、敎練なぞは一通りやつてゐるやうだけれども、強いとは思はれない。何にせよ政治が政治であるから、其下にある軍隊が強い譯はない。

△文明の程度　土耳其に行つて、意外に思つた事は總てが東洋的なる事であつた、もつと歐州化して居るだらうと想像して居つたら、何うして／＼支那、日本に餘程似て居る。文明の程度は日本よりずつと下にありと云つてよからう。電車もなければ、電燈も電話もない、丁度我々の行つた時は、現皇帝マホメツト五世の卽位二年の紀念祭があつて、首府コンスタンチノープルは非常の賑で、イルミネーションなんかあつたが、それが電氣でなく、日本で云ふカンテラのやうな物を澤山つけたので、隨つて見榮えがしなかつた。郵便機關の進步して居ない事は甚だしい。佛國人は自國人だけで郵便物を集めて集配をやつてゐると云つたやうな有樣で、市内の郵便物が一週間かゝる、以て文明の程度が解るではないか。貨幣の制度は寬大なもので、土耳其の貨幣もあるにはあるが、何處の國のでも通用してゐる、之は一寸便利である。

△女子の風俗　支那の女子が人に顏を見らるゝを厭ふやうに、土耳其の女子も然ういふ所がある。中流以下の女子で外出する場合は、必ずヴエールのやうな布を、頭から顏の見えないやうにばらりと垂れて居る。上流社會の女子は眼の所だけ出して上下を包んでゐる、此等も東洋に近い證據ではあるまいか

△水と犬　一體に水が少い。コンスタンチノープ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ルなぞは獨逸がバグダツト鐵道を敷設する許可を得んがために、土耳其の歡心を買はんとてか水道を敷いたけれども、水の供給が充分でないので賣買されてゐるやうな次第である。犬は多いので有名なもので人口百萬と云はれて居る君府に五十萬の犬がゐて、それが市街の汚物を漁つて歩いてたが、一昨年外國人から故障が出て、悉く之を孤島に追ひ遣り、絕食の結果餓死せしめたと云ふ事で、現在は殆んど犬はゐないと云ふ有樣だ。

△産物はない　產業は世界の大勢よりずつと遲れて居る。隨つて產物らしい產物がない。田とか畑とか云ふものは殆んど見ないと云つてもいゝ位である唯牧場が彼方此方にあつて、羊や小羊やが飼つてある外に何もない。洵に心細い次第ではないか。氣候は東京と餘り變りはないし、國民の努力によつたらもつと產業を發達せしむる事が出來るであらうにと他國の事ながら殘念に思ふた次第である。

△日本人は少ない　獨逸、佛蘭西、猶太、希臘人なぞが重で、日本人は極く少ない。中村と云ふ人が多年商店を開いて居つて其人が領事館でするやうな事迄やつてゐる樣な譯である。言葉は英語よりも佛語の方が一番廣く用ゐられて居る。日本は日露戰爭で勝つたので、仇を討つてくれたとでも思ふて居るのか、日本人と聞いて非常に歡迎してくれた、で吾同胞は少なかつたけれども、少しも肩身狹く感じなかつた。

△土耳其の宗教　何しろ佛、獨、英、米、猶太、希臘、アメニアン、ブルガリヤの諸國から入込んで居るので、宗教も一樣ではないが、流石にマホメツト教國だけあつて、其教が一番廣く信ぜられてゐる。信者と信者との間は慥に道德を嚴守して居るが、信者でないものに對しては、どんな不道德な事をしても構はぬと思ふて居るは一奇と言はねばならぬ。其信仰に至つては、根底頗る固く容易に其信仰を奪ふ事が出來ぬ。宗旨の敎義として一夫多妻を許してある。マホメツトは九人迄妻を持ち、普通人も四人までは

許されてあるが、一廉紳士と立てられる人も皆多妻主義を實行して居る。從つて婦人は極めて憐む可き狀態に居る。

△女子と敎育　米國婦人によりて經營さるゝ女學校が只一つある許りで、他はほんの寺小屋式の處でやつてゐる。一體マホメツト敎の盛んな國だから、例のコーランには世界の智識が藏してあると云つてこれ許りに噛り付いてるから、敎育の實が擧らぬのも當然である。

名古屋藩の靑松葉事件

（渡邊新左衞門夫人の事）

南　東　生

戰亂の時代には得て悲慘事の續出することは、事情免れざる所なれども、今更思ひ出すさへ身の毛もよだつばかり覺ゆる事の多きぞ悲しき。維新の前後には諸藩とも斯る悲慘事の間々ありしならんと思ふが、中にこゝに記載せんとする事の如きは其最たるの一なるべし。名古屋藩に靑松葉事件とて最も名高き悲慘事ありき。當時藩中に風襃黨、金鐵黨の二派ありて、甲は佐幕乙は勤王なり。渡邊新左衞門は甲の首領にして、甲黨を一名靑松葉組と云へり。蓋し渡邊の采地より納る米俵には必ず靑松葉を挿して目標となしたるによる。藩主慶勝公上洛して將さに歸らんとするや、岩倉公の嚴命を含みて、大果斷を行はんとす。さる事のありとも知らぬ渡邊等は、主君の歸城を迎へんとて早朝より登城せり。時は明治元年正月二十日なり。慶勝公は京都より六日目に着到せり。渡邊は二千五百石を領し、城代格大番頭の重臣なり。今朝老中寺代參を勤めて出仕せり。然るに此日に限り拜謁を許さず加之御用有之無刀にて烏の間に出頭すべしとの沙汰を得て、不審に堪へざれども、君命默しがたく、命のまゝ出頭したるに金鐵黨の面々其左右を警衞して、頓がて姦曲の取計有之に付、朝命により死を賜はると申し渡し、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

有無を云はさず、暴力を以て外に引出して斬に處したるは、士道を無みし重臣に對するの禮を棄てたる者にして實に亂暴の極と云ふべし。此夜同一手段を以て榊原勘解由、石川内藏允（共に千石以上の重役）の二人も反對者の手に斬られたり。尚引續き三十一人は同じく斬に處せられたり

家族の者等は斯る變事のありとは夢にもしらず、君公既に歸城ましまして、今に主人の退出なきは何故ぞと怪みて供の者を遣したれど、城門堅く鎖して之を入れず、空しく歸りたれば如何なる珍事やあるらんと安き心もなくて待ちわびつゝありしに、深更に至り、親戚の者城中よりの通知

を得て、驚き來りて之を報じ、遺骸は親戚之を受取りて直ちに埋葬し家屋敷は翌早朝官沒すべしとありければ、誰れか之を聞て狼狽せさる者やはある。然るに渡邊新左衞門夫人は（成瀨牛太夫の娘にして當時四十五歳同三十二年一月二十日沒）此兇變を聞くや家内の者を制止し、偖々驚入たる事なれども、武士たる者は何時如何なる事が起り來るやも知れず此場合こそ平素に心掛る處なれ、夫の最後は悼みても餘りある事今更云ふ迄もなけれども家内の者が周章狼狽したりとありては、此上夫新左衞門殿に恥辱を蒙らしむるなりとて、少しも道具持出方などの事をなさしめず、寧ろ夫れよりも奇麗に掃除して家内見苦しからざる樣に致すべしとて、自ら家中の者を指揮して掃除に取掛り座敷向には夫々懸物を改め、武器等を飾り立て、貴重なる物品まで一種も動かすなと云ひ渡したるに、親戚中にはかくては餘りに無頓着なりと云ふ者ありしも、否々家屋敷祿高のみならず、今日まで結構なる生活を遂げしは皆殿樣の御蔭なれば、此際種々の物品を我物と思ふこと勿れとて悉く之を取調て、夫々に始末を付け、いざ是れよりは衣服を改むべしとて、一家内の者に衣服を着換させ、婦人には身のたしなみに櫛丈けは携さへ持つべしと云ひ付け、其夜明方四時頃全く其準備も出來たれば、此上は家屋敷受取の役人が出張する迄待居るは不覺なりとて、親戚の人に之を托し此夜俄かに離緣になりて歸れる娘と共に、家族六人、外に下男下女七人を伴ひて御預け先の家に到りぬ。されば役人等は渡邊家に向ひて、表座敷より奥座敷又は納戸等に至る迄貴重品を陳列し、藏には青松葉付の米俵充滿しあるを見て、只驚くの外なく、此由藩廳に報じければ、藩主を始め何れも之を聞て偖も天晴なる武士の妻女かなと感歎して、其家に限り道具其他動產一切を妻女に賜はるとの命令ありて、成瀨牛太夫に其保管を申付けられたれば、數日間公然之を運搬したりと云ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

清國婦人の將來

片山幽吉

近來は兎角多忙なるまゝに暫く御無沙汰をして居つたか、其間に內地では今に始まらぬ婦人問題が、殊更に頭を擧げ來つて「現代の女學生」「新らしき女」「娘問題」等と、各新聞雜誌が競うて揭げ來つて大に讀者を得樣として居る樣だ。內地の新聞雜誌記者もナカ／＼上手になつて來た。然し彼等の槍玉に上げられて金儲けの種にされて居るをも知らず、色々生硬な說をして女性のあられもなき野性を曝露する婦人こそ、げに度し難き者である、之こそ本統の大問題である。

吾人は今之と關連して清國婦人の將來を述べて見樣と思ふが、之は日本人に取つては閑却すべからざる重要問題である。何せかといふと之からの日本の檜舞臺は如何しても清國であるからである。新日本朝鮮の國續きからいつても、又人文人種の上からも殊に商業上日本人の一大無盡の市場さしても、日本當面の問題は清國である。故に日本人は十分踏み込んで徹底的清國研究をやらねばならぬが、當局も一般人も頗る冷淡なので吾人は常に齒がゆく遺憾とする所が多いのである。之に付て色々述べたく又多くの材料を持つて居るも、今は單に婦人の方面丈けに制限して之から一通り述べて見よふ。之は將來一度は如何しても避くべからざる黃白人種の大衝突に對しての、吾人黃色人種婦人の大合同大活躍の伏線さも見るべきであるからだ。

一體に老いたるを好む清人には未だ餘り多くの新文明の空氣が這入つて居らない。此頃漸つと色々批難され乍らビッグテールを切り落す男子が大分見受けらる、だから、尤も保守性に富める清婦人に「新らしき女」だの「娘問題」だのといふ氣の利いた問題は起らふ筈がない。夫も其筈である。清國の法律では離婚は絕對に許さない、故に夫は去らふが逃げ樣が如何あつても妻は其家を去る事は出來ない。之は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一寸文明式で日本人から見るとナカ〳〵可い様だが之の源は貞女不見二夫の教義を極端迄に固持する例の尚古主義から來て居るのである。故に婦人等が一方に纒足矯正會等を設立し乍らも、依然鳥の様な歩み形をやつて居るのは、如何に矛盾に見へても今後二三十年間は現狀維持の外は無いであらふ。然しこんな事をいふと留學生等を見て居る東京邊りの人間には迚も想像が出來まいが、郷に入つては郷に從ふの格言を墨守するに巧みなる清人は、日本へ行けば日本風に豹變し　清國へ歸れば之は利益上都合が惡いと見れば忽ち元の木阿彌に歸る。早變りの巧妙なる事は日本人等の及ぶ所で無い。西洋婦人の蜂腰主義と清婦人の纒足とは世界の二大名物なるが後者は如何に人體の美を毀すといはれ様が、果又餘り高尚ならざる理由の存するにもせよ、此惡習慣を根本的に打破するは前途實に遼遠であらふ。

形體の上尚ほ然りとせば、精神的知識的の方面更に然る者あるは當然である。或は夫に勝るとも決して劣る者は無からふ。今之を教育の上から見るに實に甚だしく、吾人の豫想以上の者があるのである。今は昔吾人日本人が封建の世、鎖國攘夷の夢尚ほ最中なるの折、女子は三界に家無き者にして家に有つて父母に從ひ、出てゝは夫に從ひ老いては子に從へとの絶對服從生活を强ひられ、終世蛇の如き經路を辿らざるを得ざりし時代にも、彼等は夫々必要なる教育を受け、お茶に生花に或は文學趣味に何等か必ず知的趣味的の教育を受けて、少くも自己の姓名を署し得ざる者の如きは、實に萬人中の一人なりしならん。之れに反して今の清國人を見ると、己が姓名を署し得る者は、恐らく千人に一人萬人に一人ならん。勿論日本人の假名と清人の漢字の差はあらんも夫では餘りにヒドイのである。近頃所々の小學校を參觀するに、女生徒の數は男生徒の一割位か多くは夫以下である。序に一つ清婦人無學の實例を擧げて見よふ、内地からは色々商賣人がやつて來るが、其内で隨分優勢でもあり且つ有望なるは賣藥であらふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

かの池の端の守田寳丹等は、一時は上は皇室より下は一般民に到る迄用ゐて非常な勢であつた。今は仁丹に征服せれたが、其仁丹が今日迄の勢力を扶植するに色々苦心したそうだ。其中でこんな失敗がある夫は藥の効能書を餘りに皮肉にやり過ぎたのである無論清人には本來文字國だから書いた者が一番大切である。如何なる立派な者でも一通りは說明を書かぬと駄目である。書いて置けば一度は屹度讀む故に賣藥は盛んに効能を書き立てる。所が一般の婦人には一切文字が讀めぬから、男子が皆の前で讀んで聞かせる。其時に野卑に渡る言語があると夫れ切りでもう買は無い。仁丹は此點で失敗したとの事であつた故に婦人用の賣藥は特に廣告に注意を要すると。此一事如何に清國婦人の無學なるかを證するのである。

▽消極的方面

又清國人一般の婦人に對する態度は如何といふに彼等の考へでは婦人は内に遊んで居つて、小供の世話が關の山、一切生活問題には關係せず專ら男子の機嫌を取り、彼を喜ばせ彼の慰み物となれば足りるのである。故に男子は一般に婦人は深窓の下に大にお化粧をして、妾は太々で御座るとすまして居つて貰へば可いのである。然し之は怪しげなる日本婦人が和服とも洋服ともつかぬ身姿をして、清人間を横行し彼等に翫弄されて國辱を曝すのよりは優しである閑話休題、清人一般の態度は此の如くだから、例の畜妾の如き一向問題にはならぬのである。妾は相互に姉妹と親しむし、太々は之の統御者主人株といふ格で、之を率ひて行くので簡單にいへば、清人の妾は日本人の氣の利いた女中位である。先達ても相當な地位ある清人に嫁した日本婦人が來たが、云ふ所によれば、私は婚後既に七年を經過せり、されど意に滿たぬ節の多ければ今回は斷然離婚するのだと。其重なる理由を聞くに、私はクリスチアンなる故に一夫一婦の倫を保たぬを得ない。所が清國へ來ると

支那人の妾よ日本人の妾よと果しが無い。之を戒むると、何んだ日本人は心が狭い、妾の五人や十人は支那人には當然だと。一切馬鹿にして取り合は無い今にして思へば私は全く誤りました。今の女學生が東京邊りで清人の口車に乗せられて、ボンヤリ結婚すると大變な間違ひを生ずると。吾人は此位な事は夙に知つて居るが、こんな事實があるから一寸參考迄に擧げて置く。

▽積極的方面

以上主として現代の清國婦人の消極的方面を述べたが、彼等の將來を述べるには一方積極的方面を述ぶる必要があるのである。今は昔日本の名媛が北京に來つて幾多の貴嬪に接せられた。所が何時も其いふ所例のコセ／＼主義、加ふるに意氣頗る昂がらない。ソコで通譯の任に當る支那通の日本人は、若し貴媛等にして態度を一變し談話を雄大にして、少くも彼等と同等か或は夫れ以上に出られぬ以上は、今後通譯は御免蒙ると強硬談判に出掛けたが既に多少之を悟れる日本貴媛は其後態度を改めたが、一日某親王妃殿下を訪ひ御答禮に預るの際　色々運動の必要を述べ清婦人の身體の改革を説いたが、今妃殿下は夫では今より運動として徒歩にて貴寓を訪はんと妃殿下が徒歩にて出掛けられたが、行程五清里二哩以上も有るので、先の氣焔に似もやらで日本婦人先づ倒れ馬車を驅らん事を求めしに、妃殿下は却つて此方が氣樂で可いと徒歩を續けられて日本婦人は散々な目に遇ふたと。無論之は纏足せざる滿洲婦人なるも、此一事如何に高貴の婦人にても體格體力の優れて居るかを證するのである。隨つて彼等の大食なる事は、既に東京邊りの留學生にて明白ならんと思ふ。

▽清國婦人の意氣

夫から吾人は時々清婦人のシンガーの歌ふのを聞くが、容貌は敢て美では無いが、音聲は朗々と玉を轉ばす樣で、頗る美音である。若し夫れ一朝意に滿たざる者あつて、自分の良人をも姑舅をも眼中

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に置かすに、怒鳴り始めた清婦人の意氣と來たら迚も有髯男子、否實政院第一流の辯士たる雷盆も三舍を避けざるを得ないだらう。斯ういふ身體に伴ふ元氣もある清婦人なれば、纒足其他一切の手枷足枷を取り去つて、十分なる身體の發達を遂げしめば、彼等が歐米婦人と體格に於て拮抗し得る事は吾人の保證する所である。

△清國婦人の教育の程度

次に知育或は趣味教育の方面も敢て失望すべきに非ずと思はる。吾人は時々清國女學堂を參觀して、彼等が熱心に勉強しつゝある事は日本の夫と異ならざるを知る。彼等の多くが算術及理科を好まず、其大多數が手工及圖畫を好み、次に歷史地理さては唱歌といふ如き順序迄も、日本の女學校に酷似せるを知る。然かも其成績が餘り劣等に非ざるをも知る。殊に暗記は彼等の尤も得意とする所なれば、外國語の勉强には尤も適當と思はるゝのである。要は未だ文部の要路に立つ眞の新式なる物の人欠亡する爲に例のミッションスクール等に其大部分を一任せざるを得ないのである。然し今後五十年も經たば、今の日本位ひ若くば夫以上に進むだろふ。

△婦人に對する態度

夫から清國人一般の對婦人態度は、一方は前述の如く頗る輕蔑的なるも、一方は頗る尊重もされ、且つ其勢力は偉大なのである。之はかの日露戰爭の當時、清婦人が集まりし所にて日本人が色々からかつた爲に、雲衝く清人が日本官憲に訴へ來て、日本人が太々等にからかふが、我等は婦人には指一本差せないから、何卒御助を願ふと泣いて訴へて來たといふので分かる。又近頃も一寫眞師のいふには、清婦人が來寫した時には一切姿勢を正す事は出來無い一寸觸れても直に怒つて歸ると。男女七歲にして席を共にせずの極端なる變形である。夫からも一つ序に申上ると、或獨逸人が運河の稅關に役人をして居つたが、荷船が來る度に檢査する。時々婦人が乘つて來るが彼は一個の箱を持參し、其の上に座り込んで動かない。之は其箱中に重要物を匿し居る事は明

白だし、之を穏かにやると増長して遂に大事に至るから、随分嚴しくやつて事實をいはせるさうである。老婦は特に頑固でいふ事を聞か無い。そこで獨人も勘忍の緒も切れて彼女を打つた。所が之の婦人は餘りに殘酷だとて知縣衙門に訴へた。於茲獨人はアベコベにお目玉を頂戴したと。勿論之は極端の例なるもこんな所は慥にある。之を大にしてはあの西太后を始め、現在でも度々袁世凱の出山の叫ばるゝにも拘はらず、容易に内閣の椅子を占め得ざるは、依然現皇太后の忌緯に觸れて居るからである。

此處を考へると、清婦人は一方には随分輕蔑はされて居るが、一方なか〳〵威張つて居るのである。否相當に尊敬されて居るのである。之は特に一家内の全權を太々が有して居るでも分かる。

▽日本婦人に望む

以上積極的方面を述べ來れば、第一身體に於て日本婦人に勝り、優に歐米婦人と拮抗し得る者があ

し、又其意氣殊に無遠慮なる點に於て、指導宜敷を得ば歐米婦人の如く社交界の花形たる事は慥に出來る。此點は日本婦人より進歩が早いだろふ。又知力の方面も日本婦人の如く特權の識見を抱いて、嶄新なる問題に切つて入る。例せば婦人参政運動の如き此方面は寧ろ第二位に屬せんも、彼等が將來知識的に大に發展し得るは明白な事である。最後の一方輕蔑さるゝと共に一方尊敬さるといふ如き矛盾は、以上の二問題が解決せば自然に氷解さる問題であつて清國婦人の將來は實に有望なりとの斷案に達せざるを得ないのである。之に對して一言現代日本の教育あり識見ある女性諸君に呈して置きたい。夫は外に非ず、清國は日本人の檜舞臺にして清國の興亡は直に日本の夫に影響するのだから、之等幾億の清婦人を如何にせば、新式なる歐米婦人に劣らざる婦人となし得るや、十分愼重の態度を取つて研究されん事である。

シモンの父（モパッサン）

一

丸山英一

丁度今十二時が鳴つた。學校の戶が開いて、小供等は我先きにと急いで、ドヤ〳〵倒れかゝつて飛び出して來た。

大急ぎに解散したくせに、直ちに家に歸つて晝食しようともしない。例の樣に暫く行つて止まり、ゴツ〳〵集まつてヒソ〳〵話を始めた。話題は今朝ブランショットの息子のシモンが、新しく入學したといふ事である。

子供等は皆んな兼ねて、ラブラレシットの噂を聞いてゐるので、彼女は人の前では先づもてゝゐるが近所の女共が何やら嘲弄的の憐愍の情で評判し合つてゐるのを、子供等は其理由は解らないが早に認めて居たのだ。

シモンがどんな子であるかは子供等はよく知らない、といふのもシモンは戶外に出た事はないし、又村の街道や河岸等で一緒に馳競もした事はないので。こんな事から子供等はシモンを可愛がつてゐない。

子供等は口々に『オイ君、シモンを知つてるかい』『ウン彼奴は父なし子さ』など云つて得意がつてゐる中に十五六に見える子が餓鬼大將で、僕皆事情を知つてるんだと云ふ樣な風をしてゐる。

丁度シモンは學校の入口に立つて。七つか八つかの子で孰れかと云へば白い方でサッパリした小心なむしろ內氣な子である。これから母樣の處に歸る所なのだ。これをあの小僧共の一隊が、盛んに私語して、惡戯ずきな意地惡い目で見て居たが、一つ厭な惡戯をしてやらうと次第に集つて來て、全くシモンを圍んで了まつた。

シモンはジット子供等の眞中に立つて、子供等が自分に何しようとしてゐるのかしらんと驚いたまゝ困つた態でもじ〳〵してゐるすると例の隊長はしめたと威張つた樣子で。

『オイ御前は何ちう名だい』
『僕はシモンだよ』
『シモン何と云ふんだ』と隊長は問ひかへす。
シモンは全く弱つて『シモンです』と繰返した。
『僕はお前が何のシモンといふ名を持つてゐるんだときくんだ。シモンは姓ぢやないぢやないか』
するとシモンは泣きさうな顔をして
『でも僕はシモンだよ』と云つた。
腕白者共はソッと笑ひ出した。餓鬼大將は聲を振りあげて
『さうだ見たまへ。彼奴は父がないんだ』と叫ぶ。
暫時皆默つてしまつた。といふのは父のない子があるのかなと皆な思ひまどひ又是れまで自分等の御母さん達がラブランショットを輕蔑してゐるのが、如何にも解らなかつたのが、なる程こんな事であつたかなと合點し得たからである。
シモンは倒れんとするのを木によりかゝつて支へた。「父なし子」といふ恐しい攻撃に對して、言ひ解かうと思つたが別によい言葉も思ひ當らない。が遂に無造作に、
『僕は父さんがあるよ』と叫んだ。
『何所に居るんだい』と例の隊長が問ひ返したのでシモンは默つてしまつた。シモンは父さんは何所にゐるのやら知らないのだ。子供等はワア／＼と恐しい程騒ぎ出した。
シモンは連中のなかに不圖近所の寡婦の息子を見つけた。彼も自分の様に母さんと二人暮をしてゐるのを知つてゐる。シモンは突然
『君も父さんないヂヤないか。君もないヂヤないか』と云つた。
『僕はあるよ』
『何所にゐるかい』とシモンは得たりと問ふ。
するとあの子は偉さうに
『死んだよ。父さんは寺にゐるよ』
「ウム左様だ」といたづら小僧共はみな同意したし丁度死んで墓場に埋まつてゐる父を持つてゐると云

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ふ事が全く父を持たん子を愚弄するに十分なる論據であるかの樣に。此等のいたづら小僧には父があつても大概惡黨か、飲みぬけか、泥棒か、弱いぢめであるのに、皆な得意になつて押し合ひ、へし合ひして壓しつけて來て、丁度正當のものが不正のものを壓倒して息の根をとめんとする樣に見えた。

　此時シモンの近くにゐた子供は剽輕に舌をペロリと出して『父なし子ッ、父なしッ』とよんだ。するとシモンは突然兩手にその髮をつかんで其足を蹴つた。其中にシモン却つてしたたか頰を嚙付かれた。恐しい喧嘩が兩者の間に起つた。シモンは打たれ、擲ぐられ、傷をうけて、ワイ〳〵と勝ち誇つてゐる子供等の中に地べたにのめつた。起きあがるや、機械的に手で、塵だらけになつてゐる小さい鼻を拭つた。すると一人は

『親父に告やがれ』と叫ぶ

　シモンは心に殘念だと思つた。彼奴等は自分より強いから自分はうたれたけれど、自分には父さんは實際ないんだから返答の仕樣がない。「なに男が」と思つて暫くむせぶ涙を壓やうとした。けれども歔欷の發作を感じて聲をたてえず、たゞ體を動かして泣き出した。

　小僧共は「ワアイ負けやがつた」と喜び騒いで、野蠻人が厭らしい祭禮の際にする樣に手に手をとり合ひ、シモンをグルッと卷いて圓形を作り、ふしをつけて、爺なし子ッ、父なしッ子』と叫びながらおどり出した。

　シモンは突然に歔欷をやめた。氣が狂つて來たのである。足の下にある石塊をとり上げるや否や、仇を目がけて投げつけた。二三人のものは吃驚して、ワット云ふて逃げ出した。他の者もシモンの樣子が餘り恐はかつたものだから狼狽して了まつた。臆病者といふものはいつも怒つた人が來ると逃げるものだが、彼等もみな散り散りに逃けて行つた。

二

一人のこされた父のないシモンは野原の方にかけ出した。或大決心が心に浮んだからである。シモンは川に入つて死なうと覺悟したのである。シモンは八日以前に一人の乞食が錢を費ひ果たして入水した樣を思ひ出した。人々が集まつて其乞食を探がして引き上げる所に居合して、この醜い男の可憐さうな有樣を見非常に感動したのであつた。――あの蒼白い頬長く縮れた鬚、おだやかに開いた眼――一人の見物人は『死んぢやッた』と云ひ、一人は『もうこれあ極樂だね』と云つた。シモンはこの不幸な乞食が錢がないから投身した樣に、自分は父がないから溺死せようといふのである。

　シモンは水の直側に行つて水の流れを見つめた。魚が二つ三つ水中におよいで、時々チョンボリとはねて水面を飛んでゐる蠅を捕つた。シモンは涙を止めてこれを見守つた。その巧者なるが大に感與をひいたからである。

　やゝあつて俄かに天氣があれて風が木の葉を吹き

さらつて遠くに行く樣に、『僕は父さんがないから投身するんだ』といふ考がヒシ〳〵と胸に痛く迫つて來た。其日は暖い天氣の佳い日であつて、氣持がよい日光は草花を照らし、水は鏡の樣に輝いてゐる。シモンは暫時涙の後の疲れに、氣は恍然して來て暖い草の上にねむりたいと思つた。――小さい蛙が足の下に匍ひ出したのでこれを捕へようとした。けれども蛙がにげる。追ふ。にげる。三度まで失敗したがとうとう其後足をつかんだ。此樣な虫けらでも逃げたいと云ふ努力があるのかと思つて笑ひ出した。

　蛙は全力を大きな足にあつめて、突然思ひ切つてひどく二本棒に足をのばした。そして其目を金色の眼窩の中にパチつかせ、前足を手の樣に使つて、空をうつた。シモンは其時家を思ひ、母を思ひ出して再び悲しい心に壓せられてなき出した。手足は振ひだした。そして就床前にいつもする樣に膝付いて祈禱を捧げた。けれど祈禱はみなまですます事が出來なんだ。といふのは又急に烈しい歔欷が起つて來て

全く弱はつて了まつたのである。シモンは何も考へず、何も見ず一向泣きに泣いた。

俄かにシモンは重い手を肩に感じた。して其人は荒い言葉で、

『オ前は何がそんなに悲しいんだえ』

シモンはふりかへつて見たら丈の高い黒い鬚を生やした、髪の毛のキリ〳〵つとまいた人でなれ〳〵さうに自分をみてゐた。シモンは眼をくもらせ、喉頭をつまらして

『彼奴等は僕を……僕を……擲つた。父……父なし子ッて』

其人は莞爾して

『エッ誰れだつて父さんはあるんぢやないか』

シモンはかなしくてかなしくて仕方がない

『だつて僕は—僕はないんです』

此勞働人は此をきいて毅然となつた。此人はア、そはラブランショットの子だなとさとつたのだ、近頃此處に轉居

つて來たばかりであるが、朧ろげながらラブランショットの噂も聞いてゐたのである。

『なアに心配すんな、サア母さんの所に行かう、御父さんを上げるよ』

さう云つて二人は歩みかけた、―大人は小供の手をとつて―此勞働者はニッコリと笑つた。といふのはラブランショットは村中の美人であると聞いてゐるし、猶ほ此子が又と間違つた考を起さんとも限らないから助けてやる必要もあるからである。

二人はとある小さい小奇麗な白い家の前についた

『叔父さん、あれは僕の家です……御母さん』

此の呼聲に一人の婦人は現れた、丈の高い色白の婦人である。一旦男におかされた家の戸口には、如何な男も入れまいと云ふ樣な風にじつと戸の所に立つてゐるので、此男はニッと笑つたがソト離れた。そして一寸恐しい顔をして、帽子をとつて云つた。

『おかみさん、あなたの息子を連れて參りました。これやあの川の側でぼんやりしてゐたんです。

シモンは母さんの頸にだき付いて泣きながら語りだした。

『母さん、僕あネ死んで仕舞はうとしたんだよ、でもみんなが僕を僕を―うつんだもの―父…父なし子ッてね』

若い女の頬はホット赤くなつた。ジット子を抱きしめたが涙がホロ〳〵と顔に下つた。男も感動して如何してよいやら分明らんで、默然と立つてゐた。するとシモンは俄然彼の所に走つて來て

『叔父さん僕の御父さんになつて下さいネ』

暫時は深い靜けさ。ラブランショットは耻しさの餘り默つて困却つて兩手を胸にあてゝ壁にもたれてゐた。シモンは答がないので

『叔父さん、いや？僕の御父さんになつて下されないなら、僕は溺死んで仕舞うわ』

勞働者は此を戯談と思つたので、笑ひながら

『ジャ、私あ御父さんにならう』

『御父さんの名はなに……ネ、彼奴等聞いたら數へて

やるんだよ』

『ヒリップといふんだよ』

シモン暫時默つて、よく御父さんの名を忘れない樣にと口の中で繰返してみた。そして彼はあゝ安心したと云ふ樣に手をのべて

『ではヒリップ叔父さん、あなたは僕の御父さんネ』

と云つた。

ヒリップはシモンを抱きあげて兩頬に接吻し大股で急いで步み去つた。

三

翌日シモンは學校に行つたが相かはらずの冷笑をうけた。放課後又例の惡戯が初まらうとしたが、シモンは石の代はりに今度はかう言つて彼等に叫んだ

『父さんはあるよ、ヒリップといふんだ』

惡戯小僧共は一聲にワッと言つて、

『ヒリップて誰れだエ、ヒリップて何處の馬の骨だえ。何處から親爺を拾つて來たんだエ』

シモンは默つて何も答へなかつた。が確かに僕は父を持つてゐるんだ、失敬な辛い目に合はしてやるぞ、逃げてなど行くものかとジッとして忍んでゐた其時に先生が來て助けてくれたので家に歸つた。

三日許りの間、あの丈の高いヒリップは度々ブランショットの家の前を通つた。そしてブランショットが窓近くで縫物などしてゐるのを見る時には屢々思切つて話しかける事もあつた。彼女はいつも鄭重に答へた。けれど決して笑談言つたり家に入らせたりはしなかつた。でもブランショットの自分と話す後は彼女は居常よりも美しく見えると自惚てゐた。

一旦得た不評判は中々挽回しにくいもので、すぐ又何や彼やの惡評をうけるものだ。ブランショットは內氣に、控目にしてゐたにかゝはらず、再び近處では噂をし始めた。

シモンは新しい父さんは大好きで、日々の仕事がすんで後毎夕一緒に散步をしてゐた。毎日必ず學校に行き買言葉もしないで威張つてゐた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が或る日、曩日初めて攻擊した小僧は
『貴樣あ詐を云つたネ、フヒリツピなんていふ父を貴樣持たんぢやないか』
シモンは困却つて
『何んだえどうして』
小僧は手を擦つて
『貴樣の父親だらう、おツ母の何だらう』
シモンは此の理屈には困つたが
『でも御父さんだよ、如何しても』
『よからう〳〵、貴樣の親爺は善い人だよ』
シモンは頭をたれたまゝ茫然とヒリツプの働いてゐるロイゾンの工場の方へ歩を移した。
此工場は全く木に埋れてゐるので、甚だ暗い。爐の恐しい赤い光が其の周圍に五人の鍛冶を描き出してゐる。五人は金床の上を鎚打ち、其音響は恐しい程までに大きい。―炎に包まれて立つてゐる樣は赤鬼の樣。赤くなつた鐵をジツト見つめてゐる五人の鈍い考は、金鎚と一緒に上下した。

シモンは何も留意せずにヅツト行つてヒリツプの袖をひいた。彼はふりかへつたので仕事はピツシリと止まつた。他のものは期せずして目を其方に向けたすると不意の靜肅の中にシモンの聲がきこえた。
『お父さん、あの野郎は今貴父は父でないと云つたよ、何故だネ、父さん』
『えそれあ如何して』
『でも貴父はお母さんの何だとさ』と、シモンは無邪氣に云つてのけた。
誰れも笑はなかつた。ヒリツプは鎚を金床の上に置いたまゝ、其をにぎつてゐる兩手の甲に額を伏せて、茫然と立つて考に沈んでゐる。他の四人の友達はヒリツプを熟視してゐる間に、シモンは巨人の中の小人の樣に小さくなつてヒリツプの言葉を待つた俄然一人の鍛冶は四人の感情を傳ふる樣に
『ラブランシヨツトは矢張り善い正直な女さ、不幸を何んとも思はん大膽女さ。正直な男は貰つてやれよ』

他の三人の者は同音に
『さうとも、さうとも』と云つた。
あの鍛治は言葉を續いで
『ラブランショットは失敗したにしろ、あれの罪であるまい。あれにはもとから約婚があつたんだ。僕はもつと惡い事して今日尊敬せられてる人間を知つてる』
又他の三人のものは同音に
『さうだ〱、全くだ』と叫んだ
『ラブランショットは可憐な女さネ、たゞ子を教育しようと思つて働いてゐるからネ、教會へ行く外何處へも出ないで泣き暮した日は如何程だらう』
『ウンさうだ、さうだ』
爐の火を吹く鞴の音の外は何も聞えない。ヒリップはシモンの方に急いで身を屈めた。
『歸つて、御母さんにネ、私が話に行くと御云ひ』といつてシモンの肩をおさへて押しだしてやつた。
ヒリップは又仕事を始めた、彼等は夕方まで強く幸福に滿足して働いた。中にヒリップの鎚は最も高く、他を壓して勇しく動いた。

四

ラブランショットの戸をたゝいた時は、空に銀砂のやうな星の輝く時であつた。彼は日曜の晴衣を着て、新しい下着、それに髯を綺麗にひ彌つて居つた
若いラブランショットは戸口の處に現はれ出でゝ、悲しい音調で
『ヒリップさんこんな夜などに來ては』
ヒリップは答へようとしたが吃つて、モジ〱して立つて居た。
『でも貴郎もつと立ち入つた話をするのがよくない事は御存じでせう』
ヒリップはすぐに云つた。
『でも貴女がおれの妻となるなら、何ともないだらう』
何の答もなかつたが、部屋の蔭に人の倒れた音を

きいたので急ぎ家に入つた。…… 床に入つてゐたシモンは、お母さんが靜かに語つてゐる話聲を耳にした俄然自分はヒリップの手に抱き上げられた。

『シモン、明日學校に行つたら、皆なに自分の父は鍛冶のフィリップレミーだとお云ひ、御前に惡戯でもする子には耳をうつてやると云つて御やり』

翌日學校へ生徒がみなやつて來て、課業の初まる時にシモンは立ちあがり、青くふるへる唇で、しかも明晰な音調で、

『僕のお父さは鍛冶のヒリップレミーです。僕に惡戯でもするもんなら、耳をうつてやるとお云ひだよ』

と云つた。

此度は誰も笑ふものはなかつた。といふのはフィリップはよく知られた鍛冶で、父として耻かしからぬ人間であつたからである。

母の日

野口せい子

年たてばたつにまかせてまさばこの情新に母の日を泣く

母の日を數へて十五ことしを經ぬ、經ぬれど涙老んともせず

來ませ君山はみごりに雲白ししばし浮世の旅のいこひに

しみ〴〵し生命を戀す浮きもせず沈みも果てぬわれにわれ飽き

ひなげしの血に咲くたぐひ熱を好く性ゆへとこそ人はうらまじ

月見草しほれて咲きぬ五月雨は小止まぬままに今日も夜となる

降り立ちて又夕闇にほのしろき花を數へぬ習慣となりぬ

山の風夕の肌にせまるあり立ちも得去らず合歡の花かげ

草の上の長椅子に寢て大空に身をば吸はせぬ星降る夜なり

地の底のやみに這ふ子と手をとりて遊べと君の强ひ給ふかな

我むねに小石を投げて小波の廣がる如く夜の瀛車行く

高なりのうたをしづめて女の如我日の行くを君のめでます

紫陽花の色の極みと若人の戀の極みに夏の日はてる

北の海に君ますかぎり六月の我は醉はなん谷の姫百合(リリーを惠まれし北海の友に)

つややかに花はかほりて我にあり北野のはての君を語りて

夏の色々

懐かしい十年前の夏

安井哲

△ポンチ繪姿

今より凡十年前の夏、久しく吾國に漫遊中であつた英國の友が富士登山して、故郷への土產話にしたいといふ希望に、同孃の朋友二人と一處に自分も登山する事となりました。

意地惡くも出立の前日が雨降りであつたので、登山の望は到底なからうと氣遣ひながら「恐くは之れが一生一度の好機會、之れを外づしては」との友人の熱望に、延期も出來ず、終に小雨を犯して東京を出立したのが八月の中旬でありました。案内者は吾國に十年以上も住んで居た英國の商人、五六回も登山案内の經驗があるので、服裝から食物に至るまで準備は完全、私共三人は出來るだけ簡單な衣服を着けて午後二時頃勇しく雨中に登山を企てました。常には元氣の友人もさすがに疲れて、二合目近くでは案内者に助けられつゝやつと宿所に着いたのが、既に日暮れでありました。此處には先着の富士講連男女合せて十名余、爐を圍んで濡れた着物を乾かして

居る最中でありました。如何に男女間の禮儀作法がやかましい西洋人だとて、かゝる場所では何とも出來ず、さればとて衣服着換ふる「プライヴエート」の場所なくてはと、濡れた外套を引懸けた片隅に、身をひそめてコソ〳〵と着換する窮屈さ。連れの若婦人は上衣が濡れて寒さに堪えねばとて、私の羽織を裄短かに着てすました姿はどうしてもポンチ繪、互に他人の滑稽な姿を笑ひ合ふ中眠くなつたれば、明日こそは是非天氣なれかしと熱心に祈つて床に入りました。

△四方から鋭い攻撃

明くれば祈つた甲斐もなく風さへ加はつたる暴摸樣、之れでは今日も望みなしと、誰に取つても貴重な一日を此處に空しく過ごす事となりました。所が案内役の商人殿は取引上の關係から明日は是非共或人と最重要な會見をせねばならぬといふので、止を得ぬから其延期を東京に打電せねばならぬといつて居る所に、折よく下山する男が立寄りましたので、之れ幸と有り合はせた紙に用事を認め、多額の賃錢まで取らせて是非今日中に御殿場から打電せよと懇に依頼されました。先之れで安心と其日は眠りに就いて明る日の天氣如何と待ち構へますれば、失望とも何とも相變らずの雨降、之れでは到底下山の外はないと殘念がつて居る所に、馳せ登つて來たのは昨日の使、何事かと問へば、正式の電報用紙を持ちかへりましたとの事、昨日の電報は如何にせしかとあはてゝ問へば、普通の紙を用ひし故打電を許されませんでしたと答ふ●電報は至急の用事ときまつて居るに、用紙位で遙々と此處まで使を戻すとはさても融通のきかぬ當局者よと西洋人等の立腹は一通りではありません。今日では吾通信機關も非常に發達して、あらゆる便宜を吾々人民に與へられて居りますが、十年前の當時にはかゝる事も實際あつたので、私も實に氣の毒で堪まりませんでした。商人殿は止を得ず再賃錢を拂ひ最嚴重な意見書を添へて再電報

を其男に託しました。私は當時居合はせた唯一人の日本人なので(無論宿の主人は居りましたが)恰も其當局者であるかの如くに、四方から鋭い攻撃を受けて實に閉口致しました。

△雲の上人を氣取る許り

かゝる事で神經の興奮して居る人々は、之れ位の雨、何の恐るゝ事があらうと、勢烈しく登山を初めた大膽さ。初の中は耳や目を雨に打たれて心地の惡るさいふばかりもなく、かゝる登山に何の愉快があらうかといや／＼ながら歩きましたが、頂上に近づくに從つて雨も幸に止みましたので、終には喜び勇んで進みました。富士山上より見下したる景色、如何にと樂しみに樂しんで登つて見れば、下界は折重なつた雲ばかり、再び登山の機もあるまじき友人にこんな景色見せては氣の毒なりと思つても仕方がありません。唯雲の上人を氣取るばかりで寒さは寒し荷物を負つた人夫までぶる／＼慄えて居る有様、やう／＼甘酒に暖を取つて急ぎ須走口に下山致しました。降雨續きで道路惡しければとて馬車も通はず、唯一頭の馬があつたので友人を之れに乘せ、疲れた足を引きずり引ずり吉田の宿に着いたのが夕方でありました。

吉田に滯在する事三日、連れの二人に此處で別れ唯一人の友人と一處に湖水巡りして後甲府に行かうといふ計畫を致しました。

△嗚呼此清くやさしい人の心

吉田は明治二十四年の夏、女子高等師範卒業後一年目に、初めて親友二人と會合した懐かしい地、淺間様の森の中、趣きある石橋の上に腰打かけて、淸い流れを見下しながら、過去、現在、未來の身の上を互に語り合つた慕はしい記念の場處、其時世話になつた親友の義兄も其當時は亡き人となつて、其妻なる友の姉のみが一人の子供と一處に、昔に變る侘住して居らるゝと聞いて、宿を立つ朝昔の住家を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

心當てにたづねました。聞きしに勝るあはれな住居は盛なりし昔と、亡き主人、亡き吾友を忍ばせて涙ながらに訪づれますと、取次がれたのが亡友の姉、若く美くしかつた顏のひどくやつれて、心勞の程も察せられ、何となく胸塞がつて物も言へぬに「まあ〳〵お珍しい」と抱きかゝへんばかりに喜んで、涙ぐまれました。十年ぶりの積る話はありながら、相互に物も言へずに顏横向けたばかり、今日は西洋人の案內して湖水巡りに出懸ける處、來年あたりは再來て、ゆるりと御訪ね致しませう。御老母樣も御丈夫でいらつしやるか」と慰めてやつと暇乞を告げました。やがて一町とも來ぬに、オーイ〳〵と呼びながら走り來る人があるので、誰かと振りかへつて見れば亡友の姉、一尺にも足らぬ甲斐絹の切を手にして「之れは私が丹精して織つた切、何もなければ之れでも記念に進んせませう」と差出されました。嗚呼此淸くやさしい人の心、富士登山と共に一生忘られぬ經驗、いつかは再訪づれて二十年の昔を靜に語り慰めんと思うて居ます。

惠み多かりしふた夏

三谷民子

△唐蜀黍二本の贈物

御殿場から少し這入りました小山と申す處に避暑致しました時の事、三十六年で御座いました。ある百姓の八疊の座敷一間を御友達と二人で貸り受けて靜かな生活を送る事となりましたが、私は何處へ行つても只居るのが嫌な性分で御座いまして、朝夕の散步に質朴な子供の姿を見ましてあれらを集めて日曜學校やうのものを每日やつて見ようと思ひ立ち、お友達にならうと思つたけれど、中々なれないので散步の度每袂の中にお菓子を忍ばせて置き、東京の御菓子をやるからおいでと云ふやうな譯で、大分お近付が出來ました。これに每朝十時迄鎭守の森の中に集る樣に言ひつけて、それからは每朝日曜學校で

敎へるやうな事の外に、イロハも敎へれば算術も敎えました。片田舎の子供ですから、服裝から容態から、亂暴極まつたものですが、それでも子供は可愛いゝもので、散歩にでも出ますと遠方から驅付けて來る有樣は誠にうれしいもので御座います。それでもこんな事をして居りましても、分れる頃には、神樣の獨子は誰でしたと聞くと、エス樣ですと一聲に答へる樣になりました。

　此間に私にとつて忘れられない事件が起りましたと云ふのは、毎日集まつて來る子供の中に新太郎と云ふ十一歳ばかりの子がありましたが、之が非常に頭のいゝ子で何事も覺えが早いのみならず、何處か見處のある子で御座いました。然しまだ學校をやらせてありません樣子、聞き合せて見ると、家が貧乏なので學校には出しきれぬと申す返事なので、子供一人學校に出す費用は大した事はあるまいと思ひまして、人を依賴して相談をして見ました處、一ケ月五拾錢もあればよいとの事、それ位の事ですむなら私がどうかしませうと、新太郎が小學校を終る時迄の約束を致した事で御座います。

　かくして一夏を暮して明日はいよ〳〵出發致す事となりましたので、其朝は御分れの歌をうたひ、今日分れては何時又會ふ事が出來るかわからぬけれど習つた事をよく忘れずにと、告別の辭を換しました短いおなじみでしたけれども、お互にかう分れ難ない感じを致したので御座います。其日の午後私は唯一人で河原の砂地をブラ〳〵散歩して居りますと、後ろからスタ〳〵と草履の音が聞えます。振り返つて見ますと、新太郎がションボリと兩手を後ろに廻して立つて居る、何か用ありげにも見えます。

「まあ新太郎かえ、如何したの？」

と聞きますと、モジ〳〵として居りましたが、思ひ切つたと云ふ風で、唐蜀黍を二本、私の前に出しまして「これお前に遣るべい」と申します。「如何してお前持つて來たの？」と問いますと「御父さんが喰ろつて呉れたんだが、俺喰ずに持つて來たんだよ」と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の返事。私の眼には思はず涙が出ました。私は唐蜀黍が好なものですから、子供に頼んで村の家から度々買つて貰つた事が御座いますのを、子供心に氣がついて、御禮の心ともお分れのしるしとも、總ての情けから二本の唐蜀黍を持つて來て呉れたのであります。私は其時程嬉しいと思つて贈物を受けた事はありません。私はもう本當にうれしく厚い言葉で受けたので御座います。

新太郎から其後始終音信がまゐつて居ります。今は學校も卒業致しまして、ある商家に勤めて兩親を助けて居りますが、手紙を見ますと書いてある字も云ふことも一人前の若い者になつたようで御座います。

△汚いお老婆さんの脊を流す

それから二年後即ち三十八年には千葉縣の片貝で送りました。此處は又小山にも劣らぬ片田舍、土地の人はチヤン／＼コを着ただけの姿、如何にも不都合に思はれる時が多う御座いました。私共が浴衣を着、帯をしめ、足袋をはいてゐるのを不思議に思つてゐる位な處と申しましたら大抵御想像がおつきになりませう。其處の荒物屋の二階を貸りてお友達と三人で夏を送る事となりました。前にも申しました通り私は何かしらやつて見たいと思つて其機會のあれかしと祈つて居りましたが、村の人は如何しても私共を避けて近かない。東京者と云へば大概薄情だらふと云ふ考もあり、又私共がよく讃美歌をうたふ處から、耶蘇だと知り、時節柄(日露戰爭當時)露探かも知れないと云ふ疑もあつたかして、五十日も居りましたが、初めの一月は誰にも御近付になれませんでした。

村には一軒の湯屋が御座いましたが、土地の人と一所に這入るのは少々恐れますので、湯が沸いたら直ぐさ、湯屋の窓に白い旗を出して貰ふ事にし、此方の二階から見てゐて、それ白い旗が上つたと云つては眞先に這入る事に致して居りました。或る日矢

張り白旗を見て湯屋にまゐりました處が、私共より先に一人、老いさらぼいた、手と云へ足と云へ、如何にもきたならしいお老婆さんがはいつて居ります其中お友達の一人が、私に小聲にお老婆さんの背を流してやりましようかとさゝやきなされましたから、流しておやんなさいと答ひますと、そのお友達はお老婆さんお背を流してあげませうと後にまわりますと、老婆さんの驚きは本當に大變で、いろ／＼辭退致しますのを强ゐて流して分れました。處が其翌日そのおばあさんが其嫁さんと孫を連れて御禮に訪ねて見ゑました。

それからと云ふものは、あの東京者は親切だ位の噂が立つたものと見えまして、其の他の人々もちよい／＼訪ねて來るよふになり、基督敎のお話などもする事が出來るよふになりました。

此村に一人因業な老爺がありまして、桃畑の中に只獨り世の中を冷かに睨んで、村の人とも付きあはず、かたくなな心を持つてるといふので有名なものでした。此人の耳にも私共の噂が入つたものと見えまして、何時かひよつこり訪ねて見えました。其處で皆が出來るだけ歡迎して色々お話を致して歸しました。それからと云ふものは、あの老爺さん迄が行く樣になつたと云ふ噂から、私共は大分村の人とも交際がしやすくなりまして、出征軍人の留守宅を歷訪致して慰めの言葉などを申した事がありました。

嬉しい事には其後も桃畑の老爺さんが心安すく訪ねてまゐり、果ては私共の都合の如何にも係らずやつてまゐりますので、此方は一寸迷惑にも感じましたが、誰れか一人は相手になつて信仰のお話を致して居りました。いろ／＼聞いて見ますと、此老爺さんの生涯は誠に寂びしいものでありまして、妻にも分れ子もなく、世の中を自ら狹めてゐたのでありましたが、私共との交際によりて初めて人の心の暖かさに觸れたと見えまして、それからの老爺さんの世の中は割り合に廣く溫くなりまして、他人にもつひ言葉をかける樣になりました。信仰に入る迄には至

りませんでしたが、それでも私共のやりました聖書を熱心に讀んで居りました。
以上二個所の夏は斯う云ふ事件がありましたので殊に忘れられないものとなりました。恵まれたる夏として感謝に堪えぬ次第であります。

夏の巴里

藤島武二

（記者曰、十日の夜有田畫伯に伴れられて藤島畫伯を曙町の畫室に訪うた。當代西洋畫界の大家としての氏は、最も善く又最も近く巴里を識れる一人である。南窓の下に、氏はソファーに凭り乍らさら心地よげに語り出でられた。斯くて夏の巴里はさながらに吾等の心に展開せられたが、漸やくにして十五夜の月がカーテンの合ひ間から氏の背後にそつと漏れて來た。）

そう、巴里の夏も暑いことは可成り暑いが、東京の夏より餘程短かい。先づ七月の半ば以後から九月の半ばまで位なものである。東京でも夏は市街が少し淋れる傾がある、巴里ではバッタリと市街が淋れて行く。小さい寄席位は矢張り興業を續けてゐるが大きい劇場なぞは全く休めてゐるので、大抵の人が市街を離れて田舎や海岸に避暑に出懸ける。巴里の西北の海濱で、約三時間位の處に、カルヴアドスとトリプユーといふ處が在る。此處は大概上流の人々が海水浴に行く所なので、萬端の設備が整なつてゐる、又色んな娯樂の設も完全しゐる、其他五六の海水浴場に巴里の人が往くが、先づ此の二ケ所が最も有名である。一方には又海でなく山に登る。瑞西の高山なぞを攀づるので、多くは徒歩である。背中に鞄を背負つて、手には、金剛杖の様な長い棒の端に熊手形のものが附いてゐる、それで引つ懸け／＼登つて行く。背負つた鞄の中には、毛布や飲食品を携さへてゐる。多くは團體であつて、男子のみでなく婦人も其の中に加はつてゐる。其他遠く瑞西に避暑旅行を試みる人もある。

殘つたつた巴里は觀行客も殆と絶えて淋しいが、それでも兩國なぞの淋しい木陰や、水邊は隨分人が

集つて來る。公園といへば日比谷を幾倍も〱大きくしたものがある。其の十字形の廣い路の一端の小高い處から之を臨むと、實に際限も無く連なつてゐて、並木が空に消えて行く樣に見える。

一體巴里の家屋は米國あたりの大きい高い建築ではないが、總て美術的で、殊に紀念の建造物には他で見ることの出來ないものが多い。公園に行くと、早や其の入口で、立派な大理石の彫刻や銅像を見て行客は驚歎いて了う。近來は獨逸で頻りに是に眞似し矢鱈に彫刻や銅像を公園に建てゝ、素人目を駭ろかすが、全く眞似の俄作であるから美術眼で觀ると全く比較に成らぬ。永い年代を經て、世界の美術の中心が伊太利から巴里に遷つた以來、漸くに建て加へられた此等の作品は、決して間に合せでは出來るものではない。それに彼方の婦人は日本の婦人と違つて、衣服や装飾の色の配合に最も重を措くから只でも美しう見える婦人が、そういふ立派な彫刻の下や、鬱蒼たる木蔭を洒々として往來する所は、

實に何とも云へぬ麗はしさである。又少し離れたベルサイユの宮殿の大庭園に行くと大噴水が在る。日を限つて晝又は夜催されるのであつて、一時間の噴水に要する費用だけでも實に何萬フランクといふ大したものなのである。而も其の恐ろしい水量が唯高く廣く飛ぶといふ單純な水でなく、其の迸り方に頗る凝つたもので、都て美的に結構されてある噴水臺や噴水池に、飛ぶ水が或は流るゝ水が奇觀、壯麗又清涼を與へるのである。或は空高く飛ぶ急激に人の心を高く惹き、或は斜に横に、縱横に織り亂す水の綵に、種々變つた曲線の調和を見せてゐる。更らに是が夜であれば、色を散したるイルミネーションが亂るゝ水に相映じ相寫る時、全く冷たいイルミネーションといふ感が連日の暑さを一夜に流して了う。

七月の十五日は共和政の成つた紀念日である。此の夜は巴里全市の人が殆ど徹夜して夜ぴて大騷をして町々を狂うて明かすのである。辻々には樂隊が居

て盛に囃し立てれば群衆はそれに伴れて躍る跳る叫めくといふ狂態。だから此の晩は睡ることが出來ないから郊外に逃げ出す人々も隨分在る位である。

も一つ巴里の夏では他で見ることの出來ないものがある。歐洲でも他の國では皆料理店なぞでも往來から見られない所で飲食する樣に出來て居るが、巴里では夏に成ると殊更にテーブルを外に出して、往來を見乍ら飲食する。是は佛蘭西人の一般の特性で何事でも人の蔭ではせないで、總て他人の前で爲る而して自分にも樂しみ、人にも樂ませるといふ氣風が有るので、よく人が謂ふ如く英人は家庭に入つては親しみ易いが旅で怎うも近付き難く固くるしいのに反して、佛人は一見舊知の如しといふやうに遭ふと直樣心なく話し懸けられるから大變近付易い。英國人は一般に利害に關せない限は他人に親切もするが一度自分の利害に關はる事になると中々手を出さぬ。しかし佛蘭西人には少しは見え坊かも知れぬが隨分一肌脱で他の難儀を救うて遣るといふ性質が有る

西班牙の夏

湯淺一郎

△一體の氣候が東京よりもずつと暑いのですから、夏は實際やりきれません。午後の一時から三時迄は通りは店を閉めて寢て仕舞ひます。普通の商店ばかりでなく、銀行や會社のやうな處でも、みんな寢込んで仕舞ふ。勞働者は往來や公園の椅子で、ゴロゴロ寢てゐます。

△往來の角々には老爺さんがゐまして水店を出します、コップで一杯が四錢、一寸砂糖を入れてくれる西班牙は高原で草木が尠ない處故、水が不足です。遠い處から馬や驢馬の背で市に運んで來るのですから從つて水が高價な譯です。

△此水が日中賣つてゐますのでも中々冷たい、これは素燒の土器に水を入れ一晩置くと非常に冷たくなるんださうです。素燒の荒い目から滲み出した水が蒸發するのに、熱を中の水から取るといふ譯でもあ

りませう。水道はありますけれども、水量が尠ない國だから供給が不足なんです從つて水が非常に高い

△暑い國だけに飲料の製造法も進んで居りまして、種類も非常に高いやうです。アイスクリームの店は日本のしるこ屋程あります。まあ原料はアイスクリームでも食つて晝寢をやると云ふのが一般の模樣で

△中流以上の家屋になりますと、家に各々內庭が作られてある。寒い時は其周圍の室々でやりますが、暑い時は應接も食事も、すべて此內庭でやるんです夜分寢る時も露天の內庭で家內中睡る習慣です。

△內庭を持たぬ貧乏人は往來や公園で、矢張り青天井の下に寢てゐます。だから貧民町などは夜は一町內悉く空になつて仕舞ふと云ふ奇觀を呈する事があります。それ故公園のロハ臺はいつも滿員です。犬も巡査も悉く露天にゴロ〳〵して居る。夜中になると巡査が風を引くといけないと云つて起して步く。頗る妙なものです。

逗子より

孝子

道子さん、あや子さん、彈夫さん、雄二さん、お變りもございませんか。每日〳〵學校や幼稚園にお通ひに成るのに暑いでせう。私ネ、昨日直子と二人こゝにまゐりました。逗子はほんたうに凉しうございますよ。どうかしてこの凉しい風をお送りしたいのですが、小包では駄目ね。どうしたらよいでせう、しかたがないから皆さんはやく〳〵入らつしやい。

今朝海へ遊びに行きました、水に足をびちや〳〵ひたして、少さなお魚をすくひました。貝はあまりありませんけれども、丁度鏡の面のやうになめらかな、ヨーカンの上がはのやうなつる〳〵した上をおしげもなく足あさをつけました。早く皆さんも學校を終へて入らつしやい。面白いでせうねえ。

今は夕方で前の水はいつぱいきれいなしほがみちました。なんさなしにお父さまがお獵をなさつた時が思ひ出されます、ことしは又たくさん遊ばすでせう。それからかにが夕方なのでごそ〳〵這ひ出してをりますよ。やつぱり人間のやうに凉みにでかけるのでせうか

大變くらくなりました。目が惡るくなるといけませんからよしませう。あんまり皆んなの眼鏡をかけてはおかしいがらよしませう。それから、お母上樣にお家のことはたのみましたと仰つて頂戴。お琴ももつてまゐりましたから皆んでひきませう。今日シユークリームを作りましたの。少し出來そくないでした。皆さまがいらツしやる時なにかおいしいものとおまちうけにこしらへておきませう　。お父さま、お母さま、一枚姉樣へもかつさんへもくれ〳〵よろしくおや〳〵大變な字がかけました、それではさよなら。又逗子のステーシヨンで。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

隨感

現代婦人の地位

石　人　生

近時吾が國婦人界の趨勢が一般に覺醒の氣運に促されつゝあるの事實は固に慶ぶべき事であります。併し之を所謂婦人問題と云ふ大きい立場から觀察するならば、また眞に其初一歩たるに過ぎなかつたので、愈々歐米に於けるが如く、政治經濟上の問題に覺醒し來るは何れの日でありませう。併し吾々は將來此婦人問題の發展につれ、吾が國婦人も亦歐米の婦人運動者流の轍を踏んで同一の經驗を繰返し、彼のローズベルトをして人種的自殺を警告せしめたるが如き悲しむべき運命に遭遇せねばならぬものであるか否かは、漸く此萠しかかつた婦人の自覺を正當に誘導啓發する上に於て、世の識者たるものが大に考究を要すべき點であると思ひます。

今吾々は現代婦人の覺醒について考ふるに當りて最近五六年間の吾が思想界の有樣を顧みて、此新しき氣運を作つたことの問題のあつた事を記憶しなければならぬ。即ちそれは家族制度に對する問題と男女の交際問題と云ふ二事實であります。もと時代覺醒なるものは男女の性的差別と云ふ樣なものを超越して、人生の共通なる精神に醱酵せられて發するものでありますから、婦人の自覺を論ずるに際しても勢ひ男子の覺醒的事實を閑却する事は出來ない譯であります。今此家族制度にしても男女の交際にしても其問題の内容には男女兩性の覺醒自覺が交互的に相倚り相俟つて居ると云ふ事は忘れてはならない、然らば此二ツの問題が時代の覺醒の上に如何なる意義を齎らしたか試に婦人の自覺に如何なる關係があつたかと云ふに男女の交際問題は婦人の貞操問題、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

結婚問題と關聯して其道德的覺醒を喚起せしめ婦人解放の第一聲を此處に擧げたものである、次ぎに家族制度の問題は其觀察の仕方により種々なる解釋を爲すを得べきも吾々は此問題の內實に婦人の經濟的覺醒、惹いて政治上の自覺の萠芽をも纏して其の事を見るのであります。

男女の交際と云ふ事は青年男女を指した事は勿論でありますが、此問題は晩近女子敎育の發達普及に伴つて起つた處の議論で、五六年前我が敎育界、倫理界、乃至宗敎界などで、隨分興味を集めた問題であつた事は、吾々の記憶にも尙まだ新たなるを覺ゆるのであります。抑々此の問題の表面に現はれたる議論は單に交際そのものゝ可否論に過ぎなかつたけれども、吾々は此問題を生んだ社會の時代精神の內容を檢するに當りて、頗る興味深き異の人生問題が其根底に存在して居る事を發見するものであります婦人敎育の發達は一般婦人の精神界物質界の上に著しき變動を與へ、思想上從來殆んど別箇の世界に生存し居るかの如き觀ありし男女と云ふ割據的領域は大に開放せられて兩性の精神的生活が漸く接近し來るにつれ、茲に若き人々の胸中は人生の新意義について凝き自覺を喚び起したのであります。然らば此新たなる人生の自覺とは何であるかと云ふに、則ち醒めたる個性の人格的權威であります。舊き習慣や傳說や制度や道德に屈從し能はざる新しき精神であります。今や婦人は永き〳〵歷史的屈從の壓迫から解脫せんとの結婚觀貞操觀の價値と權威とに對して深刻なる疑を抱き始めた、兩性道德の根本的改革は此兩性の覺醒に基いて早晚來らねばならぬ事と信じます。而し吾々は新しきものゝ建設に先だち舊きものゝ破壞は常に幾多の犧牲と危險とを拂はなければならぬ事を知ると同時に、現代婦人の自覺は其目的を達する上に於て決して尋常一樣の努力でない事を思ふものであります。

次ぎに家族制度の問題についてゞありますが、此家族制度は實に我國家庭道德の基礎的制度であつた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

事は申迄でもない事でありますが、それも時代の覺醒に伴ひ其基礎が大に薄弱になつて來た事は掩ふべからざる事實であります。吾國の家族制度は其由來する處よりすれば、其根源は頗る遠く〳〵且廣きものでありますが、要するに其形よりすれば父權的家族にして其精神よりすれば、祖先崇拜を主義としたものと云つて宜しかろうと思ひます。父權的家族とは家族間に於ける父親の優越權を認むるの義であります。然るに近代の精神的物質的變動は此の制度をして頗る危機に瀕せしめたのであります。經濟上の原因から云へば、現代の產業制度の改革は都會人の集となつて、祖先傳來の墳墓の地たる田舍は漸く蕪れんとして居る。而して祖先崇拜の念又漸く薄らがんとするの傾あり。或は又人口增殖の結果其故國を去りて遠く海外に殖民を企つるが如き、皆これ家族制度の基礎を弛むるの原因でないものはないのであります。この時にありて、婦人も亦經濟上の一要素たる事を社會から認めらるゝに至つて、家庭を以て生涯に於ける唯一の天地の如く考へて居つた婦人は其地位の上に一大飛躍を試むべき機會を得たものと云はなければなりません。かの婦人の家庭に於ける道德的盲從は其經濟的獨立の保證を有しなかつたのと尙一つは男系に基く祖先崇拜の結果は男子のみ重要なる地位に置かんと婦人は常に輕視せられた事情にも大に其原因があるのであります。然るに今や此等の事情は日々に破壞し弛廢せらるゝに從つて一方精神的自覺と共に大に婦人の地位を向上せしめたのであります。而して此等の事情は早晚又政治上に於ても婦人より自覺を喚起し來るの日あるを豫想するに難くはないのであります。以上吾々は最近の二事實について時代の覺醒に依る婦人の地位を考察いたしましたが、併し婦人問題の前途を思ふ時一面には大なる悅びもあるけれど、他の半面には又不安もなきを得ない。要するに現代婦人の覺醒は其勢力未だ決して深大なものとは云はれない。其地位も亦決して强固なものとは云ふ事が出來ないのであります。

編輯だより

△大變なあつさで御座います、暑中にはねていろ〲の病氣が起りやすいもので御座いますから、都會に止まつてたゐでの方々も、殊に避暑地におでかけになつてゐる方も充分御注意なさるやうに祈ります。幸ひいまだ流行病の報も傳りませんから少しは心安い氣がいたします。

△今月は夏期號のつもりで編輯いたしました。それ程涼しいものを御覽に入れる事が出來ませんでしたのは誠に殘念な事で御座います

△本號のために種々材料を與へて下すつた方々及記者を引見して下すつた方々に對して深く御禮を申します。

△海老名主幹は去月二十一日相州逗子櫻山に家族さ共に避暑致しました。九月上旬には歸京の筈で御座います。

△過日の暴風雨は近年にない激しさで東京市中の被害は遊廓洲崎を初め本所深川方面は目も當てられぬ慘狀を呈しました。近來遊廓が火攻水攻の難に遭ふのは誠に氣の毒な次第でありますが。それにつけても私共は斯う云ふ惡い場所が一日も早く淸められる事を祈る次第であります。

△新聞紙で見ますさ、東海道の海岸も非常な被害がありましたさやら、鎌倉逗子片瀨鵠沼邊は避暑客で賑はつて居る今日、誠に御氣の毒な事で御座います。讀者諸姉のおうちでは御遭難になつた方もゐらつしやるかさ御案じ申して居ります。

△諸種の原稿を歡迎致します、原稿は每月十五日限本社宛御送を願ひます。

本誌定價（一部金拾錢（郵稅共）◎六部半年分前金六十錢（郵稅共）◎壹ヶ年分十二部前金壹圓拾錢（郵稅共）

外國行定價（壹部金拾四錢（郵稅共）◎半年分前金八拾錢（郵稅共）一ヶ年分前金壹圓六拾錢（郵稅共）

一行廿七字詰	四分ノ一頁	半頁	一頁	內表紙拾二圓
金廿五錢	金三圓	金五圓	金拾圓	外表紙拾八圓

●數回引續き御掲載の向へは大割引可致候

●本誌代金は總て前金に御拂込み被下度候

●振替口座にて御送金の時は手數料壹錢必ずそへらるゝこと

●郵券代用は一割增の計算にて御送附被下度候

通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず發行所宛に願上候

明治四十四年七月二十八日印刷
明治四十四年八月一日發行

東京市小石川區林町四十二番地
發行兼編輯人　海老名彈正

東京市小石川區丸山町四番地
印刷人　相原一郎介

東京市赤坂區田町五丁目十一番地
印刷所　齋藤活版所

發行所　東京小石川區林町四十三番地　新人社
（振替貯金口座一四〇〇五）
（電話番町二五四四）

新人第拾貳卷第八號

（八月一日發行）（定價金十五錢）

◎社説

◎朝鮮に於ける感想

◎教壇

◎基督の流離　海老名彈正

◎想苑

◎基督教と忠孝教　深田憲治

◎一基督教徒の見たる大乘起信論　津衙琅山

◎イエスの人格　額賀鹿之助

◎うたかたの記　雨聲庵主人譯

◎秋と夏　佐藤清

◎學生の眼に映じたるデフォレスト博士　川島金五郎

◎流人語　愚郎

◎靜宵　潔、友子、秋郎

◎南國　大石秋華

◎聖書講義

◎馬可傳　海老名彈正

◎雜俎

◎池畔の朝　藤田快堂

◎銀座の夜　森脇侃々如

◎水道本部　大塚楠男

◎時潮小觀

◎我國高等教育の弱點　中島力造氏

◎學者と名譽　夏目漱石氏

◎文藝小觀

◎七月の小説と評論

◎時評

◎教育ある人々を雄飛せしめよ

◎教派合同問題は何處まで進捗せしか

◎日米講師の交換

◎閑却されたる男子の貞操

◎朝鮮人牧師觀光團を歡迎す

◎挿畫　有田四郎

發行所　東京市小石川區林町四十三番地　新人社（電話番町二五四四番）（振替口座一四〇〇五）

最も貴重なる智識を最も單純に意得し得るは本會の有する最大特色也

女子手藝講義錄

普通科
高等科
一ケ年終了

手藝の素養なき婦人は文明の婦人たる資格を有せざる人なり

少額の費を以て家庭に最も有効なる手藝の最新智識を完全に修得せしむる本會の講義錄也講師は斯道の大家四十名世界の技術と最新の流行と最新の考案を最新式の説明法を以て簡易に講述す

會員募集

共立女子職業學校
櫻友會内手藝普及會編

無料進呈 入會規程 内容見本

圖解入（毎號石版彩色木版數十個入）

質疑（會員の質問は最も丁寧に應答を示す）

會費

科	期間	金額
普通科	一ケ月	金参拾錢
	半ケ年	金壹圓七拾拾錢
	壹ケ年	金参圓貳拾四錢
高等科	壹ケ月	金参拾五錢
	半ケ年	金壹圓九拾九錢
	貳ケ年	金参圓七拾八錢

社交上精神上家政上の成効を希望する婦女子は速に入會せよ

入會申込所
東京日本橋
大倉書店

院長診察、月、水、木、金、午前入院、診後應需、
松田、林、峰間三副長ハ目下當院ニ在勤、
電　本　八八八番(病院用)
　　　　八九八番(私宅用)

東洋内科醫院

東京神田區駿河臺鈴木町二番地、御茶水橋附近

院長　醫學士　高田畊安

神奈川縣高座郡茅ヶ崎町相海濱、從停車場半里
電　チガサキ二番

南湖院

河野、高橋兩副長ハ目下當院ニ在勤、
院長診察、土曜日午後入院、診後應需、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界

毎月一日一回發行

明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

明治四十四年八月一日發行第參卷第八號